

益 社団法人 米沢有為会々誌

復刊第72号 令和4年12月



農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋 日 山

- | | |
|-------------------------|--|
| 日本橋 日 山 本 店 | 中央区日本橋人形町2-5-1
TEL 03 (3666) 5257 |
| すき焼き割烹 日 山
(予約が必要です) | 中央区日本橋人形町2-5-1
TEL 03 (3666) 2901 |
| 日 山 亀 戸 店 | 江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1
TEL 03 (3638) 1129 |
| 日 山 大丸東京店 | 千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店内B1F
TEL 03 (3211) 2901 |

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

益 益
社 団 法 人
米 沢 有 為 会 々 誌

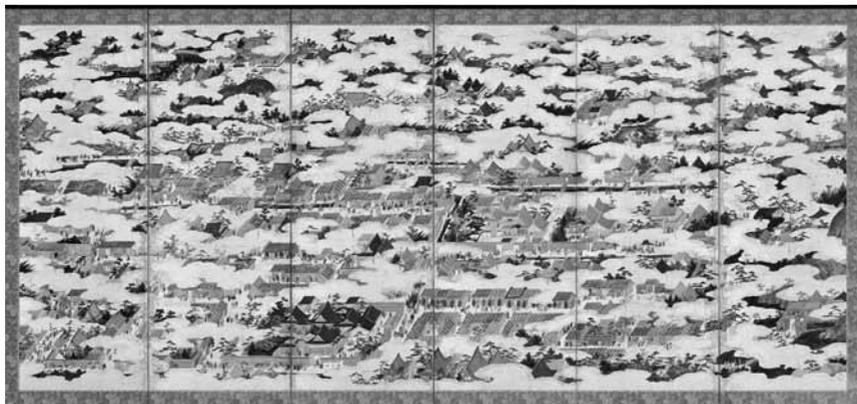
復刊第72号



国宝上杉本洛中洛外図屏風 左隻6扇左下角（ひろはしとの邸前通り）の場面

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



↑
表紙は、左隻6扇左下角（ひろはしとの邸前通り）の場面です。

〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口は10万人と言われているので、約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7（1995）年国宝となり、上杉家文書が平成13（2001）年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、今出川近くの広橋邸前通りをまつり行列が通っている場面である。鉦のようなものを付けた竿に旗を付け行進している。後ろには太鼓が続いており、祭りの前触れを告げているようである。子供たちも木刀を振りかざしたり、腰に旗指物を付けたりして飛び回っている。日傘を持った家族連れがまつりに向かう様子が描かれている。当時の風俗が見えて面白い。

目次

扉	1
御挨拶	4
コロナの後も改革は続く	6
創立百三十年周年活動ビジョン(活動五か年計画)	8
本部活動報告	12
第九(通算一三五)回定時総会報告	12
本部各部門の主要活動報告	15
期待が膨らむメタバースの世界	26
奨学生だより	27
支部だより	29
東京支部	29
米沢支部	31
仙台支部	34
北海道支部	36
興譲館寮だより	37
東京興譲館	37
仙台興譲館	40
米沢有為会だより号外―育英事業の学生募集―	42
我妻榮記念館だより	44
米沢有為会文化大学をオンライン方式で再開	47
再開第一回(通算第三十回)「よみがえる米沢海軍	48
―その人脈と消長― 工藤美知尋氏	48

再開第二回(通算第三十一回)「支倉常長の足跡を訪ねて	52
―生誕地米沢からの発信― 福崎真知子氏	52
置賜市町だより	52
米沢市	52
長井市	55
南陽市	59
高島町	64
川西町	66
小国町	69
白鷹町	73
飯豊町	75
高校生小論文コンテスト	80
会員の広場	96
郷土の本紹介	97
法人賛助会員名簿	100
公益社団法人米沢有為会役員名簿	102
公益社団法人米沢有為会組織一覧図	106
本部・各支部事務所等所在地	107
米沢有為会からのお願い	108
置賜地区自治体所在地	109
後記	110
広告掲載企業一覧	111
広告	112



御挨拶

名誉会長 上杉邦憲

「米沢有為会々誌」第七十二号の発刊にあたり、一言御挨拶申しあげます。

コロナ禍へのお見舞いから始まる御挨拶も三年目を迎えることになりました。会員の皆様や御親族、御友人で感染された方もいらっしやるのではないかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

昨年の御挨拶に「八月二十日には第五波のピークを迎え、一日に二万五八六七人という信じられないくらいに感染確認者数を記録」と書きましたが、第七波のピークを過ぎた十月二十日現在でも、一日あたりの感染者数は四万人余という状況に驚かされます。ワクチンのお蔭かとは思いますが、規制も緩み、戸外ではマスクをしなくても良いと言われても、どうすべきか戸惑われている方も多いのではないのでしょうか。

また、本年八月三日に線状降水帯による豪雨で置賜地方は大きな被害を受けました。幸いにして、東京・仙台興讓館寮に居住する寮生、奨学金貸費生の御家族には被害が無かったとのことですが、今後このような災害が生じた場合の有為会としての対応を緊急

に決定されたと伺っております。

そのような中、平山会長の下、理事・役員の皆様の御努力、御尽力により、米沢有為会の活動が着実に行われていることあらためて敬意を表します。

特に育英事業に関して、令和五年四月採用の奨学生・寮生を広く募集するため「米沢有為会だより号外十三号」を置賜地区高校と山形市内の高校に送付して、東京・仙台の大学等に進学希望或いは奨学金利用希望の学生・保護者に周知するなどの御尽力をなされ、その成果が期待されます。

さらに、「地域と私たちの未来を考える」をテーマに第五回置賜地区高校生小論文コンテストが開催され、この有為会誌第七十二号にはその結果や入選作の発表が報告されていると思います。

また、休校していた文化大学が、オンライン講演会形式ながら再開され、その第一回が「米沢海軍」の著書を上梓された工藤美知尋東京支部理事の講演、第二回が福崎真知子米沢支部諮問委員による支倉常長の足跡についての講演という貴重な機会を得られたのは嬉しいことでした。今年度はあと二回の講演が予定されており、多くの方に聴講いただければ幸いに存じます。

末筆ながら、理事、役員、会員の皆様が、今後とも新型コロナウイルスの感染防止に十分御留意されながら御自愛の上、益々御壮健にて過ごされますよう衷心よりお祈り申し上げます。



コロナの後も改革は続く

米沢有為会会長 平 山 英 三

コロナにより、首や手足を甲羅に引つ込めた亀の子のような生活が続いていましたが、ようやく改善の兆しが見えてきました。水際対策が緩和され、大幅な円安もあって大勢の外国人観光客が来日しています。「全国旅行支援」の申し込みも山形県では開始日に満杯になり、即日締め切るほどだったそうです。人の動きが多くなればコロナの感染も多くなるので細心の注意をしていくことが必要でしょう。

東京興譲館の寮生から何人かのコロナ患者が出ましたが、ひとりも重症化しなかったことは、館長や寮母さんなど関係の方たちの努力のおかげと感謝しています。

コロナで取りやめていた芋煮会は、米沢と仙台は今年も見送りましたが、東京は久しぶりに園遊会を開催し、みんなで芋煮を楽しむことができました。

休止していた文化大学も再開しました。ズームによるリモート講演に切り替えたことで、全国どこからでも参加でき、第一回、第二回とも好評でした。しかし、対面での講演の要望も強く、今後はズームと対面講演の組み合わせにいきます。是非ご参加ください。

我妻榮記念館は、我妻榮先生没後五十年・開館三十周年の記念事業に取り組んでいます。記念式典と講演会、市立図書館ナセB Aでの展示会にあわせて、先生の胸像を記念館前に設置します。そのための寄附金を各方面にお願いしておりますので、有為会会員の皆様も

よろしくご協力ください。

有為会が公益社団法人に移行してから二度目の内閣府の実地検査を受けました。具体的な改善の指導もありましたので、今後体制を改善し、充実させていきます。財務処理の体制は暫定状態が続きますが、山形育英会から紹介を受けた会計事務所と委託契約を結ぶことが出来ました。一安心です。これまでのボランティア活動では処理しきれなかった課題も見えてきています。書類の作成や保管、事務の引き継ぎなどについても体質改善や抜本的見直しが必要です。

今世界はまさに激動の時代となっています。二月二十四日に特別軍事作戦として始まったロシアのウクライナ侵攻は半年を過ぎても終息の気配が見えません。一週間持つかと言われたウクライナが、被占領地を取り戻すほどの反転攻勢に移っていることも驚きです。劣勢となったプーチン政権が追い詰められ、核兵器の使用を口に出していることも脅しとは思えず、キューバ以来の危機感が募ります。中国では習近平総書記が異例の三期目に入り、四期目も視野に入れて、強国を目指し、台湾統一に武力の行使も辞さないといっています。一旦有事となれば日本が巻き込まれるのは必至です。

郷里の名産ラ・フランスの出回る頃となりました。かつてラ・フランスは「みたく」梨と呼ばれていました。とてもおいしいのに、でこぼこで灰褐色の斑点があり、不細工で「見たくない」ほどだというのでついた名前です。食べ頃が短く、流通が難しかったことも販められて理由の一つでした。この梨は他の洋梨の受粉用だったそうです。今は収穫後に七日間以上冷蔵し、その後常温で七日間保存する「予冷」という熟成手法が開発されました。この努力で流通に乗るようになり、日本の洋梨のおよそ七割を占めるようになっていきます。この「ラ・フランス」は発祥の地フランスでは病害虫に弱く手間がかかることからもう栽培されておらず、味わるるのは日本だけだということです。

グローバル社会で躍動する置賜の未来への貢献

二〇二二年十一月現在

公益社団法人 米沢有為会

創立百三十周年活動ビジョン

進捗
状況

- 印＝活動五か年計画における重点項目
- ※印＝創立百三十周年記念事業
- ★印＝進捗済み
- ☆進捗継続中

活動の目標

- * 未来を担う置賜若人の夢を育英活動で支援します
- * 置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献します

活動五か年計画 二〇一八～二〇二二

○ 育英事業

国の内外に雄飛する有為な人材の育成と同時に、特に郷土を担う有為な人材の育成に努めます

男女共同参画社会の実現に向け、女子学生の修学環境を整備します

- 若人の置賜定着の推進
- 女子の社会進出への寄与

※世界に羽ばたく人材の育成に加え、地域を担う生き方の選択や、地元に住定する者を支援

※男女共同活躍時代の実現を促進

◇ 学生寮 ◇

学生寮（東京・仙台の興譲館寮）の施設整備を進め、勉学環境の向上を図ります

- 学生寮の勉学環境の向上
- ※(1)学生寮の充実 ①東京と仙台の学生寮を改修し、勉学環境を一層改善 ②東京興譲館寮への女子学生の受入れ

★仙台寮の居室等改修工事実施（二〇一九年夏）

★東京寮に防犯カメラ設置（二〇一九年秋）

★東京寮外装塗装・防水工事及び居室サッシュ窓工事実施（二〇二〇年秋）

★館長をサポートする東京寮運営チームの配置（二〇二〇年夏から）

★東京寮の居室リニューアル改修（二〇二二年夏施工）

☆学生寮基本問題の検討（東京寮女子学生受入れ課題を含む）

★コロナ禍で入寮希望者オンライン面接（二〇二二年）

◇奨学金◇

新たに給付型（返済減免も含む）を加え、従来の貸与型と共に充実を図ります

●奨学金制度の充実、特に減免型奨学金の創設

※(2)奨学金制度の充実 ①実質的給付型奨学金制度の創設—卒業後に置賜三市五町内に就職し、地元に住住する者に貸与奨学金の返済を免除 ②女子学生修学支援枠を設け、住宅費負担を奨学金で支援

★二〇二〇年四月採用奨学生から新規の返還一部減免型及び女子学生住宅費支援の新枠を含む新制度による奨学生を募集（以後、毎年度）

★奨学生情報の整備及び返還手続きの容易化（自動振込方式の導入等）

○地域振興事業

自治体や地域の諸活動と連携・協働して、活力ある地域づくりに貢献します

◇表彰◇

●自治体・地域関係団体との連携強化

教育・文化・産業等の分野で顕著な業績ある個人・団体・企業等の表彰、小・中・高校生のスポーツ・文化活動等で活躍した生徒の表彰、高等学校卒業生の表彰を通じて、地域社会の活性化に貢献します

●地域振興への貢献

★本部表彰と支部表彰の区分を無くして本部表彰に一本化（二〇一九年度から）

◇若人交流◇

若人交流の場を設け、意見発表や討論等、地域社会の全体で共に置賜の未来を探る機会を提供します

●若人交流と置賜定着の推進

※(3)魅力ある郷土づくりの若人対話—地域を担う生き方の選択を支援し、地域振興の自発的な意見発表の場を設ける。置賜の自治体・各種団体等との連携を重視 ①置賜

地方高校生小論文コンテスト ②若人フォーラムの実施
★置賜地区高校生小論文コンテスト「地域と私たちの未来を考える」第一～三回実施（二〇一八年度から毎年）

★若人フォーラム開催（二〇二〇年一月）

◇文化活動◇

文化講演会や文化大学等の活動を通じて、文化振興に貢献します。地域社会における文化諸活動との連携や協働を進めます

●文化活動の強化

※(4)米沢有為会の発信—米沢有為会創立百三十周年の歴史を掘り起こして発信 ①電子情報流通環境を活用してネット発信 ②会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊 ③置賜の図書館活動等と連携した展示会の開催 ④明治創刊の有為会誌類のデジタル化

★会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊

(二〇二〇年)

★市立米沢図書館との共催で「有為会百三十年の歩み」展を開催（二〇二〇年六月）

★ホームページ内容更新と充実

☆フリーのインターネット百科事典であるウィキペディアに「米沢有為会」の項目を掲載しました。

★戦前・戦後期の雑誌・会誌類等のデジタル化

◆我妻榮記念館◆

民法学者・我妻榮先生の生家を記念館として維持し、大先達の偉業を伝えます

地域振興に資する教育・文化諸活動の拠点として、記念館を活かします

●我妻榮記念館を文化活動の拠点に

★米沢市内小学五年生全員に我妻榮先生の功績紹介冊子の配布再開（二〇一九年度から）

☆長期計画のため、米沢市と共同で「我妻榮記念館将来計画検討会」開催（二〇一八年度から）

創立百三十周年記念事業等

創立百三十周年の記念事業・募金活動を通じて、この活動ビジョンの実現を目指します

○創立百三十周年記念式典等

●記念式典・記念講演会・祝賀会

※別途に各支部主催の「祝賀行事」を各地で開催

★記念式典・記念講演会・祝賀会を開催（二〇一九年六月二十二日、於…米沢）

★仙台支部（六月一日）と東京支部（六月二日）で記念講演会・祝賀会、北海道支部（六月三十日）で祝賀会を開催

○募金活動

（二〇二〇年三月末まで実施。）

★法人等会員、個人会員、寄宿舎生OB（寄宿舎OB会と連携）、奨学生OB／OGの各対象別に協賛金募集に対する協力を依頼

○会員増キャンペーン

（二〇二〇年三月末まで一区切り。以後も勧誘活動継続）

★「米沢有為会ご案内」（創立百三十周年版）リーフレット作成

★会員向けに会員勧誘のお願い

★寄宿舎生OB（未入会者）及び奨学生OB／OG（未入会者）向けに会員勧誘（寄宿舎OB会と連携）

★同郷会・同窓会との連携

★本部理事会メンバーへの働きかけ

★活動の成果として、二〇一九年度以降に合計五十九名及び一法人が新入会

○ 活動基盤の充実

（ 会員の交流と切磋琢磨を基盤に ）

□ 会員

- ・ 会員の増強（女性会員増を含む）
- ・ 同郷会・同窓会との連携
- ・ 舎生・奨学生 O B / O G 会員増

- ★ 会員増キャンペーンの項の通り
- 会員の増強と交流の活性化

* 新入会員増数を逝去や高齢による退会者数が上回る実態

□ 財務基盤

- ・ 財務基盤の強化
- ・ 寄付の促進（税優遇措置の活用等）

● 財務基盤の強化・寄付の促進

- ★ 貸与駐車場料金収入の見直し増（二〇一九年度から）
- ☆ 財務構造の把握と再構築

□ 支部活動

- ・ 会の活動の基本単位の強化
- ・ 会員交流の場としての活性化
- ・ 世代を超えた交流の場づくり
- ☆ 各支部の取組みとの相互連携強化

□ 会員交流

- ・ ホームページ上の交流増
- ・ 趣味を通じ交流の多様化

- ★ ホームページ上の「会員の広場」中に「寄稿広場」を新設、交流機会増

☆ ホームページを通じた交流の深化

□ 広報発信

- ・ ホームページの刷新拡充
- ・ 広報活動の強化

● ホームページによる発信の強化

☆ 内容の更新・充実を図ったが、引き続き充実して、ネット上の発信を重点に

□ 事務局

- ・ 本部事務局体制の整備

● 事務局体制の整備

- ★ 本部事務局担当理事を中心に事務局新体制を構築中
- ★ 事務機器の更新による事務効率化

★ 事務室に共有ファイル・サーバ設置して文書管理等。
セキユリテイ管理しながら遠隔からの情報共有と事務効率化

★ リモート会議（ZOOM方式）の導入

★ 特に東京支部の事務体制との協力・分担の明確化

☆ 事務マニユアル化の推進

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、定時総会（第九回、通算二三五回）の報告

公益社団法人米沢有為会の第九回（通算一三五回）定時総会は、令和四年六月二十五日（土）十四時より、一昨年来のコロナ禍の中、昨年と同様役員のみのリモート会議で開催されました。また、正会員の皆様には、書面による議決権行使をお願いしました。

総会は、定款第十七条の規定により、平山英三会長が議長となり、開会を宣言しました。初めに、有効出席者数について、現在の正会員数二二六名、当日出席正会員数及び議決権行使書提出会員数の合計一三〇名、議決権行使書の無効は〇名、従って有効出席者数の割合は五五・一％であり、定款第十九条の規定により本総会は成立している旨、五雲寺卓総務部長より報告がありました。これを受け、議長が議事録作成を事務局に指示し、議事に入りました。

第一号議案 令和三年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記

載の「令和三年度事業・業務報告」に沿って五雲寺卓総務部長が説明し報告しました。

第二号議案 令和三年度決算及び監査報告（決議案件）

議案書掲載の「令和三年度決算報告」に沿って森田光男財務担当理事および五雲寺卓総務部長より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、伊藤秀太郎監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 令和四年度事業・業務計画（報告案件）

議案書掲載の「令和四年度事業・業務計画」について五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第四号議案 令和四年度正味財産増減予算（報告案件）

議案書掲載の「令和四年度正味財産増減予算」に沿って森田光男財務担当理事および五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第五号議案 理事選任（決議案件）

議案書記載の理事の候補者について加藤国雄副会長から説明があり、採決の結果、全会一致で承認されました。

○理事 新任 小野 庄士

昭和四十七年三月米沢興讓館卒、高島高校、置賜農業高校、米沢工業高校、米沢東高校の校長を歴任、前川西町教育長、東京興讓館OB、奨学生OB、川西町玉庭出身、米沢支部。

二、功労者、特別顕彰表彰式

令和四年度の産業功労者並びに特別顕彰の表彰状伝達式が六月二十六日（日）米沢市の伝国の杜において行われ、中川勝米沢支部長から受賞者に賞状と記念品が授与されました。

今年度は、産業功労者表彰は一個人と一団体に、特別顕彰は優秀賞一個人、奨励賞三個人に行われました。

なお、教育文化功労者は該当者がいませんでした。（以下、学校・学年は令和三年度のものです。）

○産業功労者（個人）

▼小島長五郎氏

平成七年十一月米沢商工会議所議員就任（六年間）。平成十三年十一月常議員就任（九年間）。平成二十二年十一月から今日までの十二年間副会頭に就任。長年にわたり、会頭の補佐役として米沢商工会議所の運営及び地域経済の発展に尽力する。観光・インバウンドの担当副

会頭として手腕を発揮。コロナ禍において会員事業所が苦境に強いられている中、地域産業の活力維持・向上のための諸施策を米沢市や国・県へ提言する等の活動を行った。また、当地域の日本酒普及促進にも力を注ぎ、「おもしろいな乾杯条例」を機に「米沢の日本酒を楽しむ会」を主導。近年では、米沢小売酒販協同組合と連携し、米沢市内四つの蔵元の協力による「米沢四蔵セット」等の販売等に尽力した

○産業功労者（団体）

▼有限会社山形工房

二〇一八年に山形県のやまがた公益大賞（活動名）けん玉づくりと森を育む活動」を受賞する。長井市内の公園等で子どもたちに無償で提供した苗木を植えてもらう活動等を通して環境保全への意識を醸成し、けん玉を活用した長井市全体の町おこしプロジェクト「長井けん玉のふる里プロジェクト」の一翼を担い、高齢者向けの「福祉けん玉」を使用したけん玉教室などの企画や支援を行う。また、二〇二一年に経済産業省のはばたく中小企業・小規模事業者三百社に選定される。需要に応えた製品開発で国内外への市場の拡大や、オンラインを活用した非接触型ビジネスモデルの構築といった優れた取組が認められた。

○特別顕彰 スポーツ活動

〈優秀賞〉(個人)

▼**設楽 奏大さん** (米沢市立六郷小学校五年)

【スキー】 第十五回全国小学生アルペンスキー大会
(小学四年男子の部) 優勝

〈奨励賞〉(個人)

▼**村田 一公さん** (米沢中央高等学校三年)

【フェンシング】 全国高等学校総合体育大会フェンシング
競技大会 (個人男子エペ) 二位

○特別顕彰 文化活動

〈奨励賞〉(個人)

▼**茂木 輝義さん** (米沢市立南原小学校五年)

【作文】 全国農業協同組合中央会・山形県農業協同組合
中央会主催

第四十六回ごはん・お米とわたし 作文絵画コンクール
作文(二部) 文部科学大臣賞

▼**渡邊 泰玄さん** (米沢市立第四中学校二年)

【感想画】
第三十三回読書感想画中央コンクール (中学校の部)
優秀賞



◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

一昨年来のコロナ禍の中、昨年に引き続き本年も諸会議はリモート方式や書面で行われ、多くの集會行事等は中止となりました。

定時総会開催

例年米沢で開催する定時総会及び関連行事は、書面での議決権行使による参加とし、六月二十五日（土）の第九（通算一三五）回定時総会は、リモート方式で役員のみが参加して開催されました。定時総会では、令和三年度の事業・業務報告及び決算・監査報告並びに令和四年度の事業・業務報告および予算報告がありました。また、新任理事として小野庄士氏が推挙されました。

諮問委員会報告

諮問委員さらに名誉会長・名誉会員・相談役各位に対し、「最近の活動状況」報告（会報に提示）を送付し、五月十一日までに、昨年同様、書面や電子メールでご意見やご指摘をいただきました。

ご意見やご指摘は、整理すると以下の通りです。

- ・執行部の全般的活動を評価する（九件）
- ・百三十周年記念事業達成を評価する（三件）
- ・「本会活動を知らしめる活動が必要」、「入会のメリツトの訴求を」など会員増強に関するご意見（十二件）
- ・奨学金制度に関するご意見（三件）
- ・「学生寮の現代的意味の検討を」、「学生寮の再開発の検討を」など学生寮に関するご意見（八件）
- ・我妻榮記念館、文化大学についてのご意見（三件）
- ・「リモート会議の意義」など会の運営に関するご意見（十件）

内閣府立入検査実施

令和三年度は五年ぶりに内閣府による立入検査が令和三年十二月二十一日（火）に実施されました。内閣府から二名の検査官が東京興讓館に来館し、当会からは平山会長以下六名の理事と一名の監事が出席しました。検査は、当会の経営状態や財務状況を中心に行われ、理事会や総会の活動内容を示す議事録の点検や、財務内容を表す各種会計書類・伝票等の検査が詳細に行われました。その結果、当会の法人経営は堅実に運営されており大き

な問題はないとの講評を検査官から頂き、無事終了しました。

事務局・財務体制強化

事務局業務体制の強化を図るため、令和三年度は理事二名（二名は総務部長兼務）、参事二名の体制としました。参事の業務はジョブ型の有給とし、一名は負荷の大きい奨学金貸与・返済業務を担当し、もう一名は煩雑な有為会全体の名簿管理を担当することにしました。また、令和四年度からは会計業務を担当する事務職員一名を採用しました。

さらに、財務執行体制を強化するために、財務担当理事のもとで実務作業を行う会計事務所を設けることにし、現在やまがた育英会も委託している会計事務所と委託契約書を締結しました。具体的な委託業務内容は、税務に関する委任と会計に関する委任になります。

コロナ禍支援活動

令和三年度もコロナ禍に揺れた一年でしたが、総務部から東京および仙台の各興譲館寮の寮生を支援するため、マスクや抗原検査キットを送りました。また、東京

興譲館寮では残念ながらコロナ感染者が発生しましたが、館長や寮母と共に、感染者のケアを行うとともに、米沢有為会の本部役員および関係者に対し迅速な情報共有を行いました。

○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集について、地元高校の保護者・生徒への説明は、五月中旬から七月中に進学者の多い三校（興譲館高校、米沢東高校、長井高校）を対象として、学校の保護者向け進路説明会の中で若干の時間をいただき実施しました。また、育英事業の募集要項概要を記載した「米沢有為会だより号外十三号」のパンフレット（カラー版）を作成し、説明会で利用するとともに、その他の学校には送付して広報に努めました。

令和四年度採用の奨学金貸与生は「奨学生だより」に掲載し、学生寮入寮生選考結果は別表1のとおりです。

奨学金貸与生選考の報告と課題

奨学金制度の質的向上を目指し、創立百三十周年活動

ビジョンに掲げた新奨学金制度を、令和二年四月採用の奨学生募集から実施し、令和四年四月採用の募集は三年目となりました。その新制度の要点は、男女共同活躍社会の実現を後押しするために貸費型の「女子向け住居費補助奨学金」（Ⅰ型）、学業を終え郷土に就職して郷土置賜を担う人材の育成を目指す減免型の「地元若者定着奨学金」（Ⅱ型）、そして、従来の貸費型の「一般貸費奨学金」（Ⅲ型）の三つのタイプで、より充実した奨学金制度で育英事業を進めております。

今年度は定員六名に対し大学生一名の応募（Ⅱ型一名）となりました。十一月七日置賜総合文化センターでの教育委員による面接、十一月十五日開催の本部理事会審議を経て、採用候補者とし、その後大学合格となった時点で奨学生に採用決定となりました。採用奨学生の応募時の作文「私の志」を「奨学生だより」に後掲しています。全体として応募者が少なく、育英事業の受け入れ幅があるにもかかわらず活用されないことについては残念な結果でありました。応募者数については近年の傾向として少なく経緯しており、他の奨学金などの中で本会奨学金は「無利子であることの有意性」をPRし、一つの選択肢として活用されるように努めていきたいと思えます。

なお、本会の奨学金制度の基本構造としては、引き続き、貸与と返還が一体で循環するものであり、貸与時から奨学生とは今までもよりも緊密な関係を保ちながら運営をしていきたいと思えます。

学生寮入寮生選考の報告と課題

今年度の募集定員は東京が十名程度（通常募集五名程度、予約募集五名程度）、仙台が十名程度（通常募集六名程度、予約募集四名程度）で、新型コロナウイルス感染症防止のため、オンライン面接で実施しました。ネット環境のある入寮希望者には自宅でのオンライン面接も実施しております。今年度、東京寮に二名、仙台寮に二名の応募があり全員選考しました。両寮とも多数募集をしましたが、残念ながら入寮希望者が少なく、東京も仙台も大幅に定員を割っております。現在、東京は十四名（定員二十四名）、仙台は七名（定員十五名）の寮生であり、寮運営上大きな課題となっております。従来から広報活動は種々行っており、高校側には届いているものの、入寮の決断を促すまでには至っておりません。この結果を踏まえて、現在入寮している学生に対して「入寮決定に関する調査」を四月に実施しました。その考察では、次

のようなことが上げられました。

1 学校や保護者を通して寮を知り、紹介されており、また、入寮を勧められている。これまでの広報はほぼ有効に機能している。

2 入寮の決め手は、食事が出て、寮費が安いことであり、他との比較でこれを維持することができれば、今後魅力になりうる。

3 入寮生を増やす手立てにあげているのは、現在実施していることもあるが、①通年募集（有為会のHPに掲載）、②寮生が高校に広報説明に行く、③寮のHP作成、など。

これらも踏まえながら次年度春の採用に向けて引き続き改善をしていきたいと思います。

また、女子学生の修学環境を整備するために、懸案であります東京興譲館に女子学生の受け入れを進める事業については、学生寮基本問題検討委員会を設置して検討を継続しております。判断材料としての追加調査（①東京寮のリフォーム後の施設設備の状況を東京在住の現役女子学生に見てもらい改めてニーズの有無の確認を行うこと。②東京にある他の男女共住学生寮の調査）も予定しましたが、長引くコロナ禍で実行できずにおります。

できるだけ早く結論を出したいと考えております。

さらに、施設の整備については、創立百三十周年記念事業として、ほぼ十年ぶりとなる学生寮の大規模改修に段階的に取り組んでおります。令和三年度には東京寮は第二期工事として、寮室リフォーム工事（フローリング）と床下の遮音対策、厨房工事、給水工事（給水タンクを廃止し、直接配水方式に切替）等を行いました。仙台寮では当初予定していたトイレ便器交換工事を一部修繕以外は来年度重点的に実施することにしました。

両寮における多年度にわたる改修工事によって、勉学環境を一層向上させ、安全・安心の施設環境を提供できるようにになりました。

来年度の募集要項の概要

令和五年四月採用の募集要項の概要は、別表2のとおりです。有為会会員の皆さまには、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。



(別表1) 令和四年四月採用 奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生：「奨学生だより」(二七ページ)に掲載

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校・大学	出身地
1	美保 駿作	電気通信大学情報理工学域	1年	米沢興讓館高校	米沢市
2	武田 一晟	國學院大學経済学部経済学科	1年	東北学院高校	仙台市

② 仙台興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	杉山 綾汰	東北大学工学部材料科学総合学科	1年	長井高校	小国町
2	菅 桜太郎	東北大学経済学部文系学科	1年	長井高校	白鷹町

(別表2) 令和五年四月採用の育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ

(<http://www.yonezawa-yuikai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生募集要項

当会の奨学金(無利子)は以下の通り三種類あります。

種 類	名 称	募集対象者	定員	貸費額等
I 型 (貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅 外通学の者	2名	月2万円貸費
II 型 (減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続し て置賜に居住、県内に就業見込みの 者	2名	月4万円貸費、うち 2万円減免
III 型 (貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費
応 募 資 格	置賜地方3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者 (1) 令和5年4月の大学・大学院入学予定者または在学生 (2) 健康かつ学業優秀で将来性ある者 (3) 経済的理由により就学が困難である者			
奨学金の返還	貸費終了翌年度より、I型及びII型においては月額1万円を、III型においては月額1万5千円を本会 に返還する。			

面接選考日・場所	令和4年11月5日(土) 午後1時 置賜総合文化センター(米沢市金池3-1-14)
採用候補者及び決定通知	令和4年11月に採用候補者を決定し、また、その内の大学又は大学院合格者をもって3月までの理事会で正式に決定し、応募者に通知する。

2. 学生寮入寮生の募集要項

募集は大学・短期大学・専門学校及び大学院の合格前に予約内定する場合(予約募集)と合格後に採用決定する場合(通常募集)の二通りで行います。
 なお、通常募集は合格発表前に応募は可能です。

寮名	東京興譲館	仙台興譲館
所在地	東京都調布市人間町1-36 (新宿駅より約40分)	仙台市青葉区角五郎2-6-21 (中心市街地まで約3km)
応募資格	<p>以下の場合を満たす者</p> <p>(1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟</p> <p>(2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者</p> <p>合格発表前の応募可</p> <p>東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者(男子のみ)</p> <p>仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者(男子のみ)</p>	

面接方法	面接日・場所	寮費（月額）	募集人員		
<p>コロナ感染防止のため、オンラインによる面接を行う。</p>	<p>△通常募集▽ 1月8日、3月1日、3月10日、3月23日 いずれも米沢会場 △予約募集▽ 3月1日</p>	<p>50,000円 *在寮生の人数によって寮費が異なる場合があります。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="815 371 955 911"> <p>予約募集 3名程度 通常募集 10名程度 全室個室（定員24名）</p> </td> <td data-bbox="815 911 955 1444"> <p>予約募集 4名程度 通常募集 6名程度 全室個室（定員15名）</p> </td> </tr> </table> <p>朝夕2食付き（ただし土曜・日曜、祝日を除く）、光熱費・水道代等を含む</p>	<p>予約募集 3名程度 通常募集 10名程度 全室個室（定員24名）</p>	<p>予約募集 4名程度 通常募集 6名程度 全室個室（定員15名）</p>
<p>予約募集 3名程度 通常募集 10名程度 全室個室（定員24名）</p>	<p>予約募集 4名程度 通常募集 6名程度 全室個室（定員15名）</p>				

○地域振興部

年次計画に沿って事業活動を行いました。

まず、表彰については、産業功労者として小島長五郎氏及び有限会社山形工房の一名と一団体です。小島氏は米沢商工会議所の副会頭等を長く務められ地域経済の発展等に指導的役割を果たされました。有限会社山形工房はやまがた公益大賞の受賞や経済産業省のはばたく中小企業・小規模事業社三百社に選定され、地域活性化等へ取り組まれました。

特別顕彰者については、スポーツ活動の優秀賞は一名、奨励賞は一名、文化活動の奨励賞は二名、計四名に対し表彰が行われました。内容は当誌の本部活動の中で詳しく紹介しております。

また、高等学校卒業生表彰は置賜地区内の高等学校十三校から特に優れた卒業生、各校一名の推薦を受けて表彰しました。表彰については、米沢支部教育部長が各高等学校を訪問し校長に表彰状の伝達をお願いして実施しました。

令和三年度高等学校卒業生表彰

(令和四年二～三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、

生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。受賞者は次の通りです。

丸川 晴樹	米沢興譲館高等学校 (南陽市)
加藤 愛来	米沢商業高等学校 (米沢市)
横山 愛音	米沢工業高等学校 (米沢市)
杉原 咲音	米沢東高等学校 (米沢市)
村田 一公	米沢中央高等学校 (米沢市)
石川 舞桜	九里学園高等学校 (南陽市)
竹田 紗英	南陽高等学校 (川西市)
丸川 和紗	長井高等学校 (白鷹町)
佐藤 優真	長井工業高等学校 (白鷹町)
中嶋 丈大	置賜農業高等学校 (川西市)
市川みなみ	高島高等学校 (高島町)
松田 琴美	荒砥高等学校 (長井市)
今野 優希	小国高等学校 (小国町)

第五回小論文コンテスト

次に、第五回小論文コンテストでは、例年どおり置賜地区の高校二年生を対象として、「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」をテーマに実施しました。例年に並ぶ総数

七十八点の応募がありました。その中から慎重な審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選六点の計十一点を表彰しました。併せて、『優秀小論文集』を発行し、各高校や関係団体等へ配付しました。受賞者は次のとおりです。

最優秀賞

小国高等学校

一柳 帆花

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

小国高等学校

今 向日葵

米沢商工会議所会頭賞

米沢中央高等学校

安部 悠花

長井商工会議所会頭賞

長井高等学校

伊東 美優

米沢信用金庫理事長賞

小国高等学校

二宮 緋毬

入選

米沢興譲館高等学校

石井 倅之介

九里学園高等学校

吉田 樹里

米沢中央高等学校

後藤 音衣

米沢中央高等学校

嶽本 佳菜

米沢興譲館高等学校 三屋 俊介
九里学園高等学校 朝一 凜

○文化広報部

『米沢有為会々誌』第七十二号の発行

今回有為会誌に復活を遂げたのは、新型コロナウイルス感染症が未だ収束しない中、文化大学の再開です。今年度は四回計画され、そのうち第一回（通算第三十回）と第二回の文化大学講演要旨が掲載されました。二〇一〇年の第一回（安部三千郎氏）以来十二年、錚錚たる講師の顔ぶれを見ると、この伝統を引き継いでいくことは誠に有意義で、本会の文化振興に果たすべき役割は極めて大きいと言えるでしょう。

『優秀小論文集』の発行

第五回目を迎えた置賜地区高校生小論文コンテスト（地域振興部担当）は、今年度のテーマを「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」と設定して、地区内の高校二年生を対象に募集したところ、八校から七十八点の応募がありました。厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四

点、入選六点が選ばれ、この十一点を『優秀小論文集』にまとめ発行しました。十月二十九日(土) ホテルモントビュー米沢で行われた表彰式で受賞者や出席者に配布し、後日学校や関係者に送付しました。

ホームページの更新

ホームページ(H.P)は須貝利喜夫理事の担当により、有為会誌や支部だよりはもとより、新たに令和五年度の奨学生・寮生募集要項、再開された文化大学、高校生小論文コンテストなどが更新されています。「米沢有為会号外」や「寮生の声」を見ると、それぞれの興譲館寮で頑張っている学生の生き生きとした生の声が伝わってきます。HPは今年度も山形県立米沢工業高等学校専攻科と連携協力の下、逐次更新され本会の様々な活動が蓄積されていますので、ぜひご覧ください。また、須貝理事の会誌記事もご一読ください。

Zoomによるリモート会議

約三年に及ぶ新型コロナウイルスの影響で、今年度も五雲寺総務部長のお世話で、定時総会をはじめ理事会などの諸会議がZoomを利用したりリモート会議となつて

います。自宅のパソコンを前に出席できるので、時間や旅費のロスがなく、皆さんの評判は上々のようです。コロナ禍が収束するまで当分この方式が続きます。

管内高等学校校章



期待が膨らむメタバースの世界

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちに新しい生活様式や外出の制限を求めました。テレワークの導入が進み、オンライン会議が日常化しています。米沢有為会理事会は完全リモート会議です。今年度から再開しました文化大学もオンラインによるセミナーに切り替わり、好評のなか開催されています。場所を問わないので移動が不要など大きなメリットをもたらしています。ただ、コミュニケーションの質がどうかを問われると、課題がありそうです。それを埋めてくれるのではないかと、期待されるのがメタバースです。

メタバースは、これまでゲームを中心に利用されてきましたが徐々にビジネスシーンに広がっています。次はプライベートシーンです。インターネット上に構成される三次元の世界で私たちはアバターと呼ばれる自分の分身を介して仮想空間に入ります。現実世界と同じように常に時間が流れ続けている世界で、私たちがアバターを自在に動かしながら、親密な交流が可能になります。ミーティングでの活用が進むことを心待ちにしています。

す。現在のリモート会議では、表情を汲み取ることは部分的に可能ですが、全身の動きから喜怒哀楽を感じ取ることが困難です。アバターは全身が見える化されますから、思わずガッツポーズをとった瞬間を共有できそうです。貧乏ゆすりも伝わるのでしょうか。そんな人間らしい仕草が見え隠れしたら楽しくないですか。

メタバースは立場によって、見え方や捉え方に違いがあります。目指す方向は、大きく二つあると言えそうです。一つは現実から隔絶した別世界です。ログインすることで、アバターという自分がもうひとつの時間を過ごすことができます。ゲームを楽しむようなものです。

二つ目は現実をより便利に、そして快適にするための拡張機能としての仮想空間です。さらには、二つの方向が融合するような仮想空間も登場するでしょう。メタバースは、右にも左にも振り幅が広いと言われる所以です。私は、拡張機能としての仮想空間にも関心があります。調布にある東京興譲館寮がメタバースの会議室になり、文化大学の講演会が企画されたらどうなるのだろうかと思いを膨らませていきます。会が始まる前、お隣同士になった有為会の方とお喋りをして開会を迎えるなど楽しみ方は無限大です。

奨学生だより

一、今年度の新奨学生

次の学生が今年度の新奨学生に選ばれました。

Ⅱ型 安藤 弥々（山形県立米沢興讓館高等学校）

山形大学 医学部医学科

このところ、お一人の採用が続いています。採用人数には余裕がありますので、会員の皆様、奨学金の貸与を希望なさる高校生が身近にいらっしやいましたら、募集要項（本会のHP参照）を読んで、ぜひ応募を勧めてください。

現在、大学で学ぶ際の奨学金は、日本学生支援機構の奨学金を初め、各種の奨学金が存在しますが、本会の奨学金制度は百年以上の歴史を持つ伝統のある制度です。これまで長い間、幾多の困難を乗り越えて多彩な人材を育ててきました。今後も置賜地域の発展はもとより、各分野で活躍する「人」を育てることを目指してゆきたく思います。貸与開始の奨学生と返済開始の奨学生の文章を次に掲載します。ご覧ください。

「私の志」

（貸与開始奨学生） 安藤 弥々

私は、医師としてQOLの向上によって人々の健康福祉に貢献したいと考える。私の曾祖母は亡くなるまでの十年ほど認知症を患っていた。その様子を見ていたため、周りの大人達は日頃から健康で長生きしたいと話している。また、癌セミナーに参加した際に、大学生の癌患者が抗癌剤の副作用に苦しみながらも自分らしく生きようとしている姿を見た。また、県内の医師を目指す高校生が集まる医進塾に参加した際、高齢化が進む地域医療の課題を考えた。この経験から「医療技術の進歩」と「予防医学」のどちらもがQOLの向上に必要なと強く感じた。そのため、大学では人々のQOLの向上に寄与できる研究を学び、患者に寄り添った医師になりたいと思っている。コロナもその中の一つだが、医療の分野では決して課題がなくなることはない。常に課題解決に向けて、努力を忘れず、「心に山形、視野に世界」をモットーに地元で医師として貢献したい。

〔注「QOL」―「生活の質」、「人生の質」〕

「奨学金で得たもの」

(返済開始奨学生) 木村周幹

私にとって奨学金は生活の基盤となっていました。大学進学に伴い東京興譲館寮に入寮し、奨学金を寮費の一部に充てていました。寮での生活では同世代の人達と生活するだけでなく、様々な価値観を持った人達との寮運営という体験を通して自分自身の視野を広げることができたと思っています。そのため、寮生活は奨学金を使って大学の中では経験することができない学びを得ているような感覚で、四年間の大学生活の中でもとても思い出深いものとなりました。また、社会人となり仕事をする中で寮生活によって得た経験が実際に活かしています。この経験から私自身、奨学金の使い方次第で大学の学び以上の価値を得ることができると思っています。将来を担う若者に投資するために奨学金を増やし、学生に多くの経験を促すことも重要だと感じています。有為会の現状も考慮し、県内で就職すると確約した人には奨学金を六万円にするなど条件によって金額を変えろという仕組みなど検討することも必要だと考えています。

「大学生活を振り返って」

(返済開始奨学生) 鈴木優

私は、幼い頃からずっと憧れていた職業があり、その業界で働くために必要な語学力を身につけられる国立大学を志望していました。しかし、センター試験で思うような点数を取ることができず、他の国立大学に進学するか、金銭的に厳しい中でも憧れていた業界について専門的に学べる私立大学に進学するか家族と何度も話し合いました。そして、貴団体の奨学金を借り、私立大学に進むことに決めました。ずっと憧れていた業界について多角的に学ぶことは、例えばようもないくらい楽しかったです。正直なところは、家賃のすべてを奨学金でまかなえていたわけではありませんが、アルバイトを通して培った経験や、出会った友人は今でもかけがえのないものです。しかし、新型コロナウイルスの影響で憧れていた業界は採用を中断し、私は今、まったく想像もしていなかった業界で働いています。でも大学時代に学んだことが活かされる場面がとて多く、奨学金を借りて進学する決断をしてよかったですと心から思っています。

支部だより

東京支部

令和四年度の東京支部の活動状況を報告します。

① 四月三日(土) 第一回理事会 (Zoom)

令和四年度事業計画、予算案、年間スケジュールの確認。

② 五月二十一日(土) 第二回理事会 (Zoom)

六月定期総会に向けての打合せ、文化大学再開について講師の推薦等。東京寮の新入寮生を増やす為の意見交換。

③ 令和四年度定期総会

六月二十六日(日) 書面による議決権行使で開催。正会員数百十六名議決権行使受理数六十二名。賛成多数で承認。

④ 九月三日(土) 第三回理事会 (Zoom)

秋の園遊会開催について議論。実行委員会を設け開催準備する。

⑤ 十月二十九日(土) 園遊会開催

令和元年十一月以来三年振りに四谷・主婦会館プ
ラザエフにて、上杉名誉会長・平山会長他六十三名
(学生十二名) の参加を得て懇親を深めました。盛
会でした。

支部だより二回発行

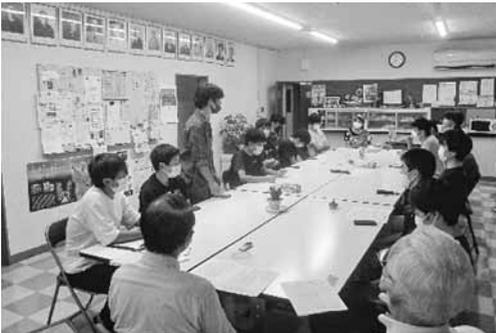
九月・支部だより(簡易版) を発行し、定期総会報告、
秋の園遊会の告知、学生寮の状況報告、文化大学へのお
誘い等を掲載し会員に伝えました。十二月は通常の支部
だよりを発行する予定です。

東京興譲館寮の状況

三月に六名の卒寮生を送り出し、四月に二名の新入寮
生が入りました。見保駿作君(電気通信大学情報理工学
部・米沢興譲館高卒)、武田一晟君(國學院大學経済学部・
東北高校卒)です。四月末時点で十四名在籍。十部屋が
空き部屋となっています。寮経営のブレイクポイントは
十八名であり、経営的に厳しい状況です。来年度は入寮希
望者を増やすべく各高校等への促進活動を強化する予定
です。支部の新入寮生歓迎会は中止でしたが、寮として

大滝副館長、運営委員（五雲寺理事・菊地理事）にも参加頂き新人歓迎会を実施しました。コロナ関係については、寮母はじめ寮生一同感染防止（マニアル作成、マスク、手洗い等）に努めていましたが、残念ながら八月～九月上旬にかけて、館長以下六名の感染者が発生しました。各自個室での七日間前後の療養で回復。その間、寮母さんの調理した食事を元気な寮生が当番スケジュールを組んで二階、三階の居室にデリバリーしてくれました。寮母・サポートしてくれた寮生に感謝しています。

来春卒寮予定の四年生は四人。大学院進学、就職等が内定しました。また、三



寮生活のスナップ

年生数名はインターシップなどで活動中で、元気に学生生活を送っています。

菅野憲幸 記



令和4年度園遊会のスナップ

米沢支部

令和四年度米沢支部の上半期活動状況を報告いたします。

○四月四日 第一回副支部長会議

我妻榮記念館にて開催。

新年度の米沢支部役員体制、米沢支部総会、我妻榮没後五十周年等記念事業、文化大学などについて打ち合わせをしました。

○四月二十日 教育・産業功労者選考会議

米沢市役所会議室にて開催。

該当者・団体を選考し、併せて賞状原文作成を分担し依頼しました。

○五月九日 米沢支部監査

米沢市役所会議室にて実施。

令和三年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査していただきました。

○五月九日 第二回副支部長会議

支部理事会議案について打ち合わせをしました。

○五月十七日 第一回理事会

米沢市役所庁議室において開催。

令和三年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する庶務・事業報告・決算報告・事業計画（案）・予算（案）を了承。また、令和四年度事業計画（案）及び予算（案）を支部総会に提案することに決定。さらには令和四年度表彰者について教育・産業功労賞表彰の選考結果を報告し本部へ提案することです承得ました。

○六月二十六日 米沢支部総会

伝国の杜大会議室において開催。

中川勝支部長挨拶の後、議事に入りました。令和三年度支部庶務・事業報告及び決算が承認されました。

また、令和四年度事業計画（案）、予算（案）が審議され、原案どおり議決されました。さらに我妻榮記念館に関する議案を審議し承認されました。

○六月二十六日 令和四年度産業功労者表彰 表彰状
達式

支部総会後伝国の杜大会議室において開催。

例年、本部総会開催の折に表彰式を開催してしま
したが、今年度も新型コロナウイルス禍により本部総会
が書面にて開催されたことから表彰状伝達式として、
米沢支部長から産業功労者、特別顕彰者に伝達しまし
た。

○七月十四日 我妻榮没後五十年・我妻榮記念館三十周
年記念事業 実行委員会 事務局会 第一回

当該記念事米沢市役所会議室にて開催。

業について、大まかなスケジュール、プロジェクト
チームによる検討、予算見積、寄附募集の取組等につ
いて協議しました。

なお、会議は、当日を第一回目として、第二回目七
月二十九日、第三回目十月七日と開催しております。

○八月十八日 我妻榮没後五十年・我妻榮記念館三十周
年記念事業 実行委員会

米沢市役所会議室にて開催。

銅像建立、本田吉馬氏宛我妻先生書簡の寄贈、我妻
榮伝出版取りやめ、記念講演講師及びパネリスト報告
の後、各プロジェクトの検討事項、大まかなスケジュ
ール及び予算等について検討を行いました。

○八月二十九日 第一回文化広報部会

我妻榮記念館にて開催。

支部だより第四十三号の発刊、有為会会誌復刊第七
十二号について協議しました。

○九月八日 副支部長会議

市役所会議室にて開催。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、十月二十九日開催
予定の支部理事・諮問委員合同会議、講演会及び交流
芋煮会については昨年に引き続き中止することにしま
した。

○九月八日 令和四年度置賜地区高校生小論文コンテス
ト審査委員会①

市役所会議室にて開催。

応募状況の報告、審査の進め方、審査要綱等を確認

し、審査の分担を決定しました。

○九月二十一日 令和四年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会②

市役所にて開催。

一回目の審査について情報交換し、二回目の審査分担を決定しました。

○九月二十六日 令和四年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会③

市役所会議室にて開催。

審査のまとめ、審査の感想・意見等を交換しました。

○十月五日 「故郷を愛した民法学者我妻榮先生」配布伝国の杜小会議室にて開催。

小学校校長会のおり、市内各小学五年生に向け同冊子を配布しました。

○十月七日 令和四年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会④

市役所会議室にて開催。

審査結果のまとめ、各賞の確認・決定を行い、審査の感想・意見等を交換し、今後の取り組みを協議しました。

○十月十五日 支部だより第四十三号封入作業及び発送
我妻榮記念館にて。

○十月二十九日 令和四年度置賜地区高校生小論文コンテスト表彰式
モントビュール米沢にて開催。

▲訃報会員

ご生前の御協力に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

(一)内は命月

遠藤 善之様 (令和四年八月)

菅野智幸 記

仙台支部

コロナ禍により、仙台支部は令和二・三年度に続き今年度も支部総会はじめ会員交流行事を開催することができませんでした。令和四年十月末現在、感染は収まったかに見えていますが、このまま感染が収束し一日も早く元の状態に戻れることを願っています。

▲仙台支部役員体制の変更

支部長の甲國信氏が昨年十二月から体調を崩し、思うような行動ができない状態にあります。因みに任期は二年で令和五年三月までです。六月支部役員にメール・電話で連絡を取り、副支部長の鈴木修治氏を支部長代行に選び、当面支部活動を行うことを決定しました。

▲仙台興讓館の近況

コロナ禍が始まって以来、幸いにも仙台興讓館に感染者は出ておりませんが、濃厚接触者が八月一名発生し一週間自室に隔離、その間寮母さんが食事を運び、仙台駅前でコロナ抗原検査を受け陰性という結果で解除しまし

た。昨年は新規入寮者が少なく、寮生数が定員十五名のところこれまでで最も少ない七名にまで減少し、今年は二名の新入寮生が加わりましたが、昨年と同じ七名の寮生で、相変わらず寮の運営に赤信号が灯るという問題が起きています。今年の四月寮生に入寮決定に関する調査を実施しましたが、入寮を決定するにあたって保護者に勧められたものがほとんどでした。入寮生を増やすためには、高校での広報、説明会の実施、寮の様子、生活に関する情報の発信、などの意見が出されました。コロナ禍により、置賜の高校における寮の説明会の開催ができません。それを補うために令和二年末、仙台興讓館の案内動画を作りユーチューブにアップしました。サイトには初年度は約三百五十名、今年は約二百五十名の訪問者がありました。昨年八月に山形新聞に中途入寮生募集の広告を二回掲載しましたが、全く反応はなく、結局有為会から寮母給与補助の援助を受けることになりました。途中からの入寮は現在のアパートに敷金・礼金を払って一人暮らしの生活に慣れ、寮費が安くとも途中から入寮に入るのには難しいかもしれません。

仙台寮も建築から三十五年が経過し、建物は大地震にもビクともせず頑丈ですが、内部の設備・器具等の老朽

化が見られます。一月に厨房の水道管の水漏れの修理、九月風呂のシャワーホースに黒カビがびっしり生え交換と風呂場の戸の戸車の修理、寮母室だけテレビの特定のチャンネルが映らず、衛星アンテナの設置を行いました。また、市で回収するごみ袋は歩道にネットで覆っていましたが、カラスに食い荒らされることが多く、対策として一万円の金属製メッシュゴミボックスを通販で購入しカラスの襲撃はなくなりました。



黒カビがびっしり生えた風呂のシャワーホース（右側）



通販で購入した1万円の金属製メッシュゴミボックス

▲会員の皆様へのお願い

支部にとって寮生不足の解消は当面する最大の課題です。寮生会とも連携し寮生の増加に努力します。コロナ

禍の影響で収入が減り、家計への教育費の負担を極力抑えたい家庭は少なくないと思います。皆様の周囲に、仙台で修学を希望する学生にぜひ仙台興譲館をご案内いただきたく思います。置賜地区以外の出身者でも会員の推薦があれば入寮できます。関心を示された方には、ぜひ仙台興譲館に問い合わせるようにお勧めください。

▲会員異動

現在、会員数は八三名（賛助・正会員八二名、法人会員一社）です。これまで長い間会を支えて来られた会員の方が高齢となって退会されています。今後この傾向はますます強まることが予想されます。会員増強が課題となりますが、ここ約十年間在寮した卒業生に連絡を取り、有為会に是非加入し寮運営に援助をするよう呼びかけます。

▲支部だよりの発行

コロナ禍の下で、支部からの情報発信と会員間の交流に、支部だよりは重要な役割を果たします。今年度も手作りで年二回の発行を予定しています。

甲 國信 記

北海道支部

些か改善の兆しも感じられるようになったコロナ禍、それにしても、支部総会や会員の皆様との親睦会等々を開催出来る状況にはありません。

もう三年目になりました。当支部では、会員の皆様の高齢化が進み、残念な情報のみが寄せられる現状では未来を語ることも出来ないでおります。

先日、丹野理事とこれからの活動について会談を致しましたが、結局のところ、この状況の終息を願うばかりでありました。

新会員の募集につきましても、プライバシー保護が優先され、北海道に入学、転勤などの情報収集が制約されている事も、何か割り切れない感じを持つてしまうのは当支部だけでしょうか。

来年は楽しいご報告が出来ますように祈念しております。

実は誠に残念なご報告があります。

北海道支部事務局の窓口として、実質二十二年間にわたり担当し、行事にも参加していただいた、樋口貴恵子

さんが病氣療養中のところ、今年九月十五日に他界されました。

その関係で今年度の事務連絡等に支障が出てしまいました事、心よりお詫び申し上げます。

樋口さんの長年に渡るご協力に対し心より感謝申し上げますと共に心よりご冥福をお祈りいたします。

田村邦夫 記



有為会親睦会北大構内クラーク像前にて
左より2番目が樋口さん

興讓館寮だより

東京興讓館

瀬野陽生

日頃より東京興讓館寮の運営と私たちの学生生活に多大なご支援をいただいている有為会の方々に感謝申し上げます。現在、我々東京興讓館寮には十四名の寮生が在籍しており、それぞれの目標に向かって日々邁進しております。

二〇二〇年度より始まったコロナ禍も三年目を迎え、リモート授業が中心であった私たちの学生生活も、対面形式に移行し始めています。

しかし、コロナ禍当初から感染防止対策に努めてきてはいたものの、今年は寮生の何人かが新型コロナウイルスに罹患し、寮内での感染拡大が懸念されました。その際には、菅野館長をはじめとした有為会の方々、寮母さんの手厚いサポートのおかげで大事に至ることなく乗り越えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。これからもコロナ禍の緊張は続くことが予想

されますが、決して気を緩めることなく、節度ある生活を心がけてまいります。

さて、東京興讓館寮は昨年度には五名の寮生が卒業し、今年度新たに二名の新入生を迎えました。慣れない新生活を懸命に生きる新入寮生の姿に、私自身が入寮した當時を思い出し懐かしさを感じるとともに、先輩として彼らをサポートしていかなければならないという責任感を覚えます。

一方で、二十四室のうち十室が空室という事実には少々寂しさを覚えます。コロナ禍の影響もあってか入寮生の数は減少傾向にあり、昨年よりも静かな印象があります。また、寮の財政難にも頭を悩ませており、毎年恒例であった食事会が実施できませんでした。有為会の方々には、寮の運営の支援や来年度の新入寮生の獲得にご尽力いただいております、私たちも寮の為にできることをよっていく必要があると感じております。寮の設備や電気、水道を無駄に使わないなど、些細ではありますが節約の意識を持っていきたいと思えます。

最後になりますが、寮生十四名の紹介をもって結びとさせていただきます。今後とも我々東京興讓館寮を温か

い目で見守ってくださいませよう、どうぞよろしくお願
いいたします。

【四年生】

井上 太陽 (帝京大学経済学部)

(西山学院高校) 米沢市出身

後藤 洵 (東京理科大学基礎工学部)

(山形東高校) 山形市出身

三浦 稜太 (國學院大學経済学部)

(山形商業高校) 山形市出身

【三年生】

瀬野 陽生 (明治大学商学部)

(山形商業高校) 山形市出身

高橋 勇輝 (東京大学理科1類)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

二宮 涉 (電気通信大学情報理工学部)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

金田 凌 (杏林大学医学部)

(長井高校) 長井市出身

鈴木龍太郎 (東京農工大学工学部)

(米沢興讓館高校) 長井市出身

大西ひかる (明治大学理工学部)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

我妻 恵多 (東京都立大学理学部)

(高畠高校) 高畠町出身

【二年生】

伊藤 翔大 (一橋大学社会学部)

(長井高校) 川西町出身

【一年生】

武田 一誠 (國學院大學経済学部)

(東北学院高校) 高畠町出身

見保 駿作 (電気通信大学情報理工学部)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身





春の大掃除打上げ会



クリスマス会

仙台興讓館

鈴木 優

常日頃より寮の運営、寮生へのご支援等にご尽力いただいております米沢有為会の皆様、この場を借りてお礼申し上げますとともに、仙台興讓館寮の近況についてご報告させていただきますと思います。

今年三月には二名の寮生が卒業し、自身の目標に向かって新生活を歩み始めました。一方で今年の仙台興讓館寮では、二名の新入寮生が入寮し、前年度と変わらず計七名という少ない寮生ではありますが、新体制での寮生活が始まりました。二〇二〇年から続く新型コロナウイルス感染症によって、私たち学生の生活はこれまでものとは大きく変わっています。いまだに対面での講義が制限されている学生や、学校での行事などがなくなってしまうという状況です。そういった生活の中で、新入寮生をはじめ多くの寮生が生活自体に不安を持っていてると思います。今年度、寮長になってから半年が過ぎましたが、寮長を務める身として寮生の生活のサポートができるよう努めていきたいと思っています。

今年度の寮生活は、前年度に比べて大きな変化はなく、新入寮生歓迎会や新年会、忘年会といった行事を行うことができませんでした。私は入寮して三年目になりますが、このまま新型コロナウイルス感染症が収束するまではおそらく、そういった行事をともに開催することはできないと思うと、非常に残念な気持ちです。しかし、いつの日か新型コロナウイルス感染症が収束するその日まで、待ち続けたいと思います。寮では感染症対策として、手洗い・うがい、寮内でのマスクの着用、アルコール消毒の設置、浴槽の使用禁止などを推奨・徹底しています。こういった日頃の感染症対策のおかげか、今まで寮生で新型コロナウイルスに罹患した人はいません。これから感染症対策を徹底し、気を緩めることなく生活していきたいと思います。

寮には寮母さんが常駐されていて、平日は朝夕の二食おいしいご飯を頂くことができます。一時期は寮母の職に就いてくださる方が見つからず、寮生が自炊をしたり総菜を買ったりして生活している時期がありました。そういった経験をしたことから、寮母さんがいることのありがたみがよく分かりました。食事だけでなく、どうすれば寮生活が改善されるかといった相談や改善案

などをよく聞かせていただいております。これからも寮母さんへの感謝の気持ちを忘れずに生活していこうと思
います。

最後になりますが、コロナ禍の慣れない生活でありな
がらも、私たちが安心して寮生活を送ることができてい
るのは、有為会の先生方をはじめ、寮母さんや寮を支え
てくださっている方々のおかげです。そういつた方々へ
の感謝の気持ちを忘れることなく、日々の生活に励んで
まいりたいと思いますので、今後ともご支援のほどよろ
しくお願いいたします。

寮生名簿

渋谷 拓 (東北大学大学院 情報科学研究科M2年)

[米沢興譲館H29年卒] 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部産業

福祉マネジメント学科4年)

[米沢東H28年卒] 米沢市出身

鹿又 桂司 (東北大学経済学部3年)

[米沢興譲館R2年卒] 南陽市出身

鈴木 優 (東北学院大学経済学部3年)

[米沢商業R2年卒] 米沢市出身

◎令和4年度前期・後期寮長

日下 和也 (東北医科大学薬科大学薬学部2年)

[米沢興譲館R3年卒] 高島町出身

杉山 綾太 (東北大学工学部材料科学総合1年)

[長井高R4年卒] 小国町出身

菅 桜太郎 (東北大学経済学部1年)

[長井高R4年卒] 白鷹町出身

●寮母

桶川 幸江 (古川市出身、就任3年目)



10月17日の夕食



米沢有為会 育英事業の

学生募集

公益社団法人

米沢有為会だより号外

米沢支部 第13号

米沢市金池5丁目2番25号(米沢市役所内秘書広報課内)

置賜3市5町の在住者・出身者のお子さんを対象に募集しています。

★奨学生募集(令和5年4月採用奨学生)

奨学金制度の概要 当会の奨学金は3種類あり、いずれも無利息。

種類	名称	募集対象者	定員	貸費額等
I型(貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2名	月2万円貸費
II型(減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III型(貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費

◆応募締め切り 令和4年10月27日(木)

◆面接選考日 令和4年11月5日(土)午後1時

現在貸与中の出身高校：興譲館高、米沢東高、米沢商業高、九里学園高、米沢中央高、山形東高

★寮生募集(令和5年4月入寮生) <予定>

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学者、又は入学予定者(男子のみ)で次のいずれかの者 (1)置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2)有為会会員1名以上の推薦を受けた者	仙台市内及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学者、又は入学予定者(男子のみ)で次のいずれかの者 (1)置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2)有為会会員1名以上の推薦を受けた者
寮費(月額)	(平日2食付 光熱費含) 50,000円	
募集人員	10名程度(定員24名)	10名程度(定員15名)
面接選考	1月～3月に4回実施予定	
面接場所	米沢会場(自宅可)(オンライン面接を行います)	

※今回は暫定的なもので、正式には10月下旬に募集要項、ホームページに掲載します。

◆募集は予約募集(大学合格前に予約内定する場合)と通常募集(大学合格後に採用決定する場合)の2通りで行います。

現在の寮生の出身高校

東京興譲館…高畠高、米沢中央高、興譲館高、長井高、山形東高、山形商業高、西山学院高、東北学院高
仙台興譲館…興譲館高、米沢東高、米沢商業高、長井高

*募集の詳細は公益社団法人米沢有為会ホームページを是非ご覧ください。

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>(最新情報はCTRL+F5で更新してください)

学生寮紹介

安くて快適そして安心 仲間との交流で自分磨き

- ◎寮は2食付(平日朝・夕)で5万円…アパートより断然安く負担軽減。
- アパートで生活する場合
 - 東京(郊外)で5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め送り額約10万円程。
 - 仙台で4万～5万円。他に食費、光熱費など含め送り額約8～9万円程。
- ◎東京興譲館寮は新宿駅から約40分。仙台興譲館寮は市街地まで約3km。
- ◎居室は個室。プライバシーは、しっかり確保。閑静な住宅街にあり環境抜群。
- ◎企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。
(協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。)
- ◎郷土の仲間が身近におり、また、コロナ感染対策を徹底しており、本人も保護者も安心です。保護者や学校の先生も入寮を勧めています。
- ◎YouTubeで「東京興譲館寮」「仙台興譲館寮」と入力。紹介動画が見られます。

寮生からのメッセージ/コロナに負けずがんばろう!



東京興譲館

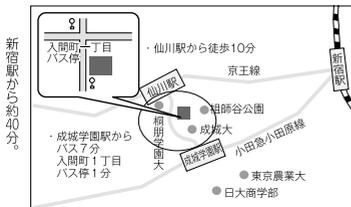
寮生活での利点、得たものは多数あります。

朝夕2回、バランスよい美味しい食事ができること。又新入寮生歓迎コンパ、卒業生追出しコンパ、など、寮生皆が楽しめるイベントが多く、沢山の思い出が作れます。上級生・下級生の別なく日々生活をしていく中で、寮生活で得た様々な経験は大学在学中だけでなく、社会に出てからも大いに役立つと思います。特にここ2、3年のコロナ禍で学園閉鎖、Zoomでの授業等キャンパスに行けず友人とも会えない中、寮内では仲間との会話ができ精神的な孤独感等から救われました。団体生活に不安を感じる人もいるかと思いますが、先輩方をはじめ寮母さんなど全員が協力し合っ

てサポートしていくので心配しなくて大丈夫です!ぜひ東京興譲館寮で一緒に寮生活を送り学園生活を謳歌しましょう。



東京興譲館寮：東京都調布市入間町1-36
TEL：03-3309-3302



仙台興譲館

現在仙台興譲館寮には7名の学生おり、大学や学年などは関係なく楽しく共同生活を送っています。

基本的には毎週平日朝夕の2食、寮母さんが栄養バランスを考えておいしい料理を作ってくれます。栄養が偏りがちな大学生にとってはとてもありがたいです。

当寮は自治寮のため、月に一回月例会を行い、寮で問題がなかったか寮生同士で話し合います。一般的に規範のある生活を送れば、門限がなく自由な寮生活を過ごすことができます。

また、コンビニ、スーパーが近くにあり、買い物には困らなったり、そばにバス停があるため移動も楽だったり、広瀬川が近く、自然の中で運動もできます。

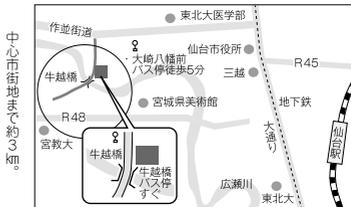
仙台に進学するなら、仙台興譲館寮はとてもいい環境です。

不安なことがあればすぐに相談できる環境ですので、是非検討してみてください。

(寮長：鈴木 優)



仙台興譲館寮：仙台市青葉区角五郎2-6-21
TEL：022-222-4790



我妻榮記念館だより

○開館の経緯等

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生まれ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過ごされました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越しされ、大友家を買って昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建築物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月二十一日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年六月）
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～）

○令和三年度の運営報告

・年間開館日

通常開館日：毎週月・木・金・日曜日の午後一時～

四時 一六八日開館

臨時会館：一日開館 合計一六九日開館

・入館者数 一六三名（二年度は二五二名）

・記念館の利用 二二四名（二年度は一七〇名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会

・施設整備等

樹木の刈込及び消毒等の実施

・資料整備 著作を(株)ジーエスデザインがPDF化

・印刷出版

「我妻榮記念館だより」第二十六号発行（十一月三十日）

市内各施設、弁護士会、法学部のある大学など四七

八ヶ所に送付

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学五
年生全員（六六七名）に配布

・その他

＊県立米沢興譲館高校の自願財団奨学生による清掃

奉仕と館長講話（六月十八日（金）生徒七名）

＊運営委員会 十月、三月とも新型コロナウイルス

感染防止のため中止

○令和四年度の運営計画

・開館日は、毎週月・木・金・日曜日の四日間

午後一時～四時

・記念館の補修整備

・記念館の資料（著作）整備

・「我妻榮記念館だより」の発行（第二十七号 十一月頃）

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学校

五年生全員に配布

・運営委員会（年二回）

・令和四年度が記念館開館三十周年、令和五年度が名誉
市民・我妻榮先生の没後五十年に当たることから、実
行委員会で決定した寄付金募集などの事業について、

令和四年度から実施する。

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、
管理運営しています。

名誉館長 我妻 学

顧問 問 上村 勤二

館長 矢尾板 操

運営委員 本多 和彦 安部 敏 佐野 隆一

高橋 節子 佐藤 繁 曾根 伸之

佐藤 哲

管理人 手塚 正



我妻榮記念館

我妻榮先生は来年没後五十年を迎えます

(記念事業のお知らせと募金協力のお願い)

米沢市名誉市民我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業実行委員会(以下「実行委員会」)を立ち上げました。この事業の趣旨は、この節目を機に、より広く郷里置賜の方々をはじめ県内外の多くの方に我妻榮先生を知っていただくことです。

米沢有為会と米沢市が主催者となって記念事業を実施します。

主な事業として

- (1) 没後五十年を機に我妻榮記念館前に銅像(胸像)を建立する。
- (2) 命日である令和五年十月二十一日に記念式典と記念講演会を伝国の杜で開催する。
- (3) 我妻榮先生の特別展をナセBAと我妻榮記念館で開催する。

そのための寄附募金を会員の皆様をお願いいたします。

◇募金額 個人…一口 五、〇〇〇円

できれば二口以上 お願いいたします。

法人…一口 二〇、〇〇〇円

口数に上限はありません。

なお、本寄附金は税制優遇の対象となります。

◇寄附者名 『米沢有為会々誌』にご芳名を掲載させていただきます。

◇募集期間 個人、法人とも…二〇二二年十一月一日～

二〇二三年九月三十日

◇申込方法 郵便局の下記口座。

口座記号番号：00120-1-763769

加入者名…公益社団法人 米沢有為会

なお、現金で振込の場合通帳、カードがないと振込手数料以外に別途一〇〇円の手料を要します。

文化大学をオンライン方式で再開

文化大学は、平成二十二年から令和元年までの十年間、東京興譲館（調布）を会場に、年に数回開催されてきました。その後、コロナ禍で休講していましたが、本年令和四年からオンライン講演会方式（Zoom利用）で再開しています。

オンライン方式により、今後は東京支部に限らず、全国の会員の方にご自宅から聴講いただけます。

コロナ禍の収束後は、このオンライン講演会方式と従来の集会方式とを併用して開催する予定です。

本年度の開催日程、講師、演題は次のとおりです

- 再開第一回…七月二十四日（日） 開催済み
- 日本海軍戦史戦略研究所長 工藤美知尋さん
- よみがえる米沢海軍―その人脈と消長（以下に抄録掲載）

●第二回…十月二日（日） 開催済み

- 一般社団法人支倉常長日西文化協会副理事長 福崎真知子さん

・支倉常長の足跡を訪ねて―生誕地米沢からの発信（以下に抄録掲載）

●第三回…十二月四日（日） 開催済み

- ・湘南科学史懇話会代表 猪野 修治さん
- ・湘南科学史懇話会二十五年度の歴史 ―実践的な在野学の冒険

●第四回…令和五年二月二十六日（日） 受付中

- ・前鶴見大学客員教授 菊地 隆雄さん（当会理事）
 - ・「満洲」と米沢有為会―宇佐美勝夫の役割
- 参加登録をお待ちしています**

オンラインでの参加方法を以下に示します。
パソコンのほか、スマートフォンやタブレット端末などの通信環境をお持ちの方は、どなたでも事前に参加登録することによって、聴講できます。Zoom利用のための無料ソフトはネットを通じて入手できます。聴講の仕方に関しては、米沢有為会ホームページ↓育英・文化事業↓文化大学をご覧ください。講演資料等も収録しています。

また、Zoomの利用が未体験で不安な方は、次の文化大学事務局アドレスまでご相談ください。

bunka-d@yonezawa-yuikai.org

米沢有為会『文化大学』

再開第一回（通算第三十回）文化大学

令和四年七月二十四日（日）

オンライン

「よみがえる米沢海軍―その人脈と消長」

日本ウエルネススポーツ大学教授

工藤 美知尋



〔原著〕工藤美知尋『米沢海軍―その人脈と消長』芙蓉書房出版、令和四年七月二十四日発売、二、六四〇円）

〔講師略歴〕昭和二十二年四月二十九日、山形県長井市生まれ。長井高校卒。日本大学法学部卒、同大学院法学研究科政治学専攻・

政治学修士（『日ソ中立条約の史的的研究』。著書『日ソ中立条約の研究』南窓社）。ウィーン大学留学。東海大学

大学院政治学研究科博士課程修了・政治学博士（学位論文『日本海軍・太平洋戦争開戦原因論』、著書『日本海軍と太平洋戦争（上・下）』南窓社）。日本政治外交史・日本海軍史研究家。現在（「政治学」、「文章表現」担当）

〔講演要旨〕

近代海軍士官を育成するための兵学校が開校されて間もなかった日清戦争までは、旧薩摩藩や佐賀県出身の海軍軍人が多数を占めていたが、それから十年経ち、日露戦争の頃になると、海兵を卒業した士官が日本海軍の中堅を占めるようになった。この中に旧米沢藩出身の中堅士官が多数いた。

今日われわれが「米沢海軍」と言う時、そこには二つの意味が込められている。

その一つは、海に全く面していない内陸の米沢盆地から、意外にも多くの海軍将官が誕生したのは驚きであるという意味で使う場合である。

もう一つは、海軍軍令部長を務めた山下源太郎大将や今村信次郎中將をはじめ、昭和二十年の終戦時の鈴木貫太郎内閣において、鈴木首相や米内光政海相を助けた左近司政三中将や片桐英吉中將、また真珠湾奇襲作戦で第一航空艦隊司令長官を務めた南雲忠一中将など、明治期から太平洋戦争終焉に至るまで、旧米沢藩出身の多くの将官たちが、日本海軍の中核を占めた理由について問う

場合である。

これについては今回の講演で詳しく話す訳であるが、これは決して偶然の結果ではない。

薩摩藩の場合には「薩英戦争」というエポックメイキングな事件があり、以来本格的に海軍建設を意識したように、米沢（上杉）藩の場合も、戊辰戦争時からの苦難の時代があり、この過程を通して旧藩士の子弟の立身の手段として、海軍が意識されるようになった。

さて、今回の『文化大学』講演の演題を、なぜ「よみがえる米沢海軍―その人脈と消長」としたかについてであるが、昭和五十五年刊行の「米沢海軍武官会」監修による『遠い潮騒―米沢海軍の系譜と追憶』以来、四十数年にわたって「米沢海軍」に関する本格的な研究が行われてこなかったことがある。

近現代史研究において、半世紀近くも研究が行われなかったならば、社会から忘れ去られてしまうであろう。

実はもう一つ「米沢海軍研究」がためらわれた理由がある。それは同郷出身の海軍将官の間に、昭和五年のロンドン海軍軍縮会議以降、深刻な亀裂が入っていたのである。

『遠い潮騒』をまとめられた松野良寅氏は、海兵七十五期で、終戦当時はまだ在校中であった。その松野氏は、昭和十七年十月から十九年七月まで、当時海軍兵学校長

であったリベラリストの井上成美大将の薫陶を受け、思想的には井上の考え方に深く傾倒していた。

私としては、親睦を主目的に再興された「米沢海軍武官会」の中にあつて、松野氏自身が歴史的評価を下すことをためらわれたと考えている。当時は存命の米沢海軍士官もいたし、もちろん遺族の方もいた。「米沢海軍」に対して歴史的評価を行うことは、散華された先輩方に対する非礼に当たると考える関係者も何人もいた。

しかし令和四年の今日、太平洋戦争開戦から既に八十年が経過し、帝国海軍の終焉から七十七年を数えている。そのような時にあたり、このたび戦後生まれの私が「米沢海軍」の歴史的評価を試みることは、それなりに意義のあることだと考えた。以上のような問題意識に立って、私は「よみがえる米沢海軍」をお話することにした。

（追記）今回の講演会（Zoom）の開催は、ひとえに米沢有為会「文化大学」の役員の皆様方のご尽力のお陰である。ここに心から感謝申し上げる次第である。なお、今回の講演会と拙著については、七月二十四日付『山形新聞』米沢支社の阿久津誠氏の筆によって『米沢海軍―盛衰たどる』、さらに九月二十一日付同新聞「味読・郷土の本」コーナーで、山形大学術研究院教授山本陽史氏によって、「米沢海軍―歴史的評価を試みた意欲作」と題して詳細に紹介された。

第二回（通算第三十一回）文化大学

令和四年十月二日（日）

オンライン

「支倉常長の足跡を訪ねて」

生誕地米沢からの発信」

一般社団法人支倉常長日西文化協会

副理事長 福崎 真知子



今から四〇九年前、一六一三年十月、支倉常長は伊達政宗の命によりサン・ファン号にて慶長遣欧使節団約一八〇名でスペインに出帆した。スペインでの生活は常長自らクリスチャンの洗礼を受けサムライ日本の精神を発揮しながら、スペイン国王やローマ教皇との謁見を待ち、ようやくローマでは盛大な入市式で出迎えられる謁見の儀を果たした。しかしその頃日本では鎖国が始まっており、貿易交渉とキリスト教の布教という目的は果たせずに、一六二〇年九月二十日に仙台に帰郷した。

しかし二年後に亡くなったとの事で不遇な人生を送ったと言われているが、常長のサムライとしての高潔な精神文化はスペインでは高く評価され、特にスペイン人が知っている有名な日本人として常長の名が挙がるとの事であり、私たちは常長の功績を紹介し認知度を上げようと様々な事業を二〇一四年から展開している。

偶然の出会いから、米沢出身の名和玲子が主宰の「さくや姫文化使節団」に所属している音楽アーティスト「天地人」が二〇一四年、日本スペイン交流四百周年記念事業に招かれ四都市で演奏を披露し生誕の地米沢を紹介したことから、「こと」がスタートした。その際、米沢市長からスペイン四都市の市長宛てのメッセージを持参しコンサートと桜植樹を行った。訪西報告を兼ね私と彼女は、約一年かけて、十五件の生誕祭関連事業を実施し、その際ご臨席のスペイン大使から二〇一八年は日本スペイン国交樹立百五十周年につき訪問して欲しいとスペインに招かれた。それを受け毎年継続して日本・スペイン文化交流事業を行い、二〇一七年「一般社団法人支倉常長日西文化協会」として組織化を図り、九里学園の九里校長に理事長にご就任いただく等、準備を進め二〇一八年には六五名で訪西団を結成、七日間のスペインツアーを実施した。

ツアー一日目、コリア・デル・リオ市にあるグアダルキビル川岸から、「米沢藩古式砲術保存会」六名の発砲演武、轟音が響き渡りこれぞ日本！と感無量の交流開始の合

図となった。その後、川岸に建立されている「支倉常長像」の前で記念写真を撮り、市民音楽隊による演奏で市庁舎までパレード、多くの市民の方々が道端で手を振り出迎えてくれた。市庁舎ではセレモニーがあり新たな交流のスタートの感激の一瞬であった。その後ガーデンパーティで美味しいスペイン料理を堪能、夕方からは文化会館を貸し切り、日本文化紹介のワークショップとして風呂敷結び、折り紙など紹介。ホールでは、天地人や太鼓の演奏、スペイン側では、カーネギーホールでも公演した合唱団によるコンサートやフラメンコ舞踊などを行い、多くの市民の方にご来場いただき文化交流を図った。

翌日は、サンタマリア教会での特別ミサを体験、神父様から「おかえりなさい」とのお話があり、クリスチャンではない私たちに煎餅の様な聖体を口に入れていただき、また沢山の市民の方からスペイン語で話しかけられ、「あなたハポン！私もハポン、だから私とあなたは家族！」と言われた。「ハポン」とは、常長帰国の折、当時スペインに残った数名の日本人の末裔のことで、彼らはそれが自慢であり米沢は常長生誕の地としてあこがれの町、聖地であるという。思い出に残る体験であり常長が通ったであろう荘厳な雰囲気のある教会を後にした。マドリッドでは、サッカースタジオのレアルマドリッドのレストランを貸し切り、在スペイン日本大使との百五十周年記念レセプション、その夜はワールドカップの日でサッカー場にはパブリック

ビューイングの設置中であった。また会員のみが入場できる王立アカデミーでは天地人コンサート及び日本文化紹介「着物ショー」など五件の公的事業を実施し七日間に渡るツアーを終えた。実施にこぎつけ無事帰国できたのは、偏に佐藤元日本大使やスペイン在住の下平氏のお陰と心から感謝している次第である。

翌二〇一九年八月、二二名のハボンさん達が来日、米沢では歓迎セレモニー、夏祭りでもおもてなし。スペインの女性には浴衣をプレゼントするなど日本の夏を満喫頂いた。その後コロナ禍となったがオンラインなどで現在も交流を図っている。二〇二〇年は常長がテーマのわらび座によるミュージカル「ジパング青春記」公演、二〇二一年七月「サントニアゴ巡礼の旅」写真展及び「私のスペイン」写真コンテスト、十二月オンラインツアー&スペインシユクリスマスディナーショー（フラメンコ付き）。そして二〇二二年七月～十一月「私のスペイン」写真コンテスト& WALL ART、十二月メモリアルコンサート（山形交響楽団と天地人との共演）を準備進行中。これまで各種の事業を通じ、国内外の様々の方との出会いがあり支えていただきここまで来れた。

今後も米沢の風土から生まれた偉人のひとり「ヨーロッパに渡ったサムライ支倉常長」を紹介し、国内外からの来訪者による地域の活性化及び、民間外交として国際交流の発展に繋げていきたいと思う。

置賜市町だより

米沢市

最上川源流よねざわ紅花プロジェクト

歴史と文化をつなぐ、米沢に咲く、紅花。

山形県の紅花の歴史は古く、生産から加工までのシステムとして現代に受け継がれ、産業界のみならず、多面的な効果をもたらしています。令和三年十月に「最上川流域の紅花システム 歴史と伝統をつなぐ『最上紅花』」が世界農業遺産に認定申請されたことを契機とし、本市の紅花の次世代への継承と地域経済の活性化を図るための新たなプロジェクト事業を展開しています。

令和四年四月、紅花栽培が盛んな山上地区や、観光、米沢織の関係団体、大学、市などで組織する「最上川源流よねざわ紅花プロジェクト推進協議会」が設立され、生産から加工、販売、観光、文化、教育、景観などの様々な取り組みを一体的に展開することで、「オール米沢」で本市の紅花の更なる磨き上げを目指しています。

時をさかのぼれば紅花は、本市を含む最上川沿いの地域で室町時代から栽培・加工されてきました。

その生み出す美しい赤い色は、長い間、多くの人を魅了してきましたが、近代化などの影響で紅花栽培は一度大きく衰退

しました。昭和二十六年、市内中学校の理科教師・鈴木孝男さんが独自に紅花染めの研究・紅花栽培を始め、その染めの技術を市内の織元に伝えたことで、米沢産紅花での紅花染めとその商品化に成功しました。そして、今



なお紅花を愛してきた先人の方々の思いを受け継ぎ、本市で紅花栽培・紅花染めを守り続けている方々がいます。数年前からは山上地区の住民の方々が地域づくりの一環として育て始め、栽培面積は過去五年で十倍に増え、県



内二番目の栽培面積を誇っています。

一方で、紅花への関心を高め合う市民向け普及啓発をはじめ、紅花収穫時期の人手不足、米沢の紅花の認知度不足、紅餅や乱花以外の新たな活用方法など、多くの課題もあります。

最上川源流よねざわ紅花プロジェクトでは、そうした本市の課題を少しずつ解決しながら地域経済の活性化を図っていくために、これまで紅花に関わってきた方々だけでなく、より多くの市民の方々・団体・企業・大学等と連携し、栽培拡大、商品開発や観光振興、景観づくり、紅花文化の継承など多様な活動を繰り広げていくプロジェクトになっています。

観光振興事業となる、米沢の夏まつりの一つとして「最上川源流よねざわ紅花まつり」を開催しました。今年度は、まつりの期間を七月一日～三十一日のロングランイベントとし、紅花料理教室や紅花料理を楽しむ夕べ、紅花シンポジウム、紅花染め体験など市民の皆様には紅花を身近に感じてもらえるような多彩なイベントを企画実施しました。また、七月十六日には紅花が咲き誇る山上地区をメイン会場に、紅花に関連する様々な体験・展示ブース、子供たち・若者たちが盛り上げるステージイベント、キッチンカーやマルシェなどで賑わい溢れる夏の新しいイベントを盛大に開催しました。さらに、同日の夕方からは、幻想的な羽黒神社ライトアップコンサートや一八〇〇発の見ごたえのある打上げ花火も実施し、昼・夜で四五〇〇名の方にご来場いただき、米沢の紅花の魅

力を市内外の方々に楽しんでいただきました。

また、次世代への継承事業として市内小学校での紅花摘み体験や紅花染め体験、各高等学校での紅花をテーマにした探求学習、大学生ボランティアスタッフによる紅花栽培活動も実施していただきました。その他にも、加工販売事業として紅花を活用した製品開発に取り組んでいたいたり、景観形成事業として紅花畑オーナーを募集し山形新幹線沿線の景観づくりに参加いただいたり、紅花種子を無料配布し自宅や会社、学校などで紅花を栽培していただいたりしながら、市民一人ひとりが様々な形で県花・紅花に携わっていただいています。



さらに今年度は、本市内だけでなく横浜市役所等でも紅花アレンジメントの展示会を実施させていただきました。ホームページやSNSサイトを立ち上げたりしながら、首都圏の方々をはじめ世界中の方々に山形・米沢の紅花の魅力を広く情報発信して

います。

長引くコロナ禍ではありますが、最上川源流よねざわ紅花プロジェクトを通じ、多分野にわたった「オール米沢」での盛り上がりを図りながら、「歴史と伝統がたなぐく米沢に咲く、紅花。」をテーマに、紅花の魅力を多くの方々と共有し合い、米沢らしいオンラインワンの紅花に対する温かい想いを市内全体に美しく咲かせていくことで、本市に活気を取り戻し、世界農業遺産認定の機運をさらに高めてまいります。

みんなで目指そう!!
『世界農業遺産』!!



長井市

遊びと学びの交流施設「くるんど」

本市では、生活に必要な都市機能を中心市街地に整備・誘導して充実させ、各コミュニティセンターを核とした周辺地区と公共交通で結ぶ『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』を進め、快適で利便性の高い、魅力的なまち、将来にわたってしあわせに暮らしていける「持続可能なまち」の実現を目指しています。

平成二十九年には、市外から本市を訪れた方々をまちなかに呼び込むゲートとして、市内で最も交通量の多い一般国道二八七号沿いに、道の駅の機能を備えた観光交流センター「川のみなと長井」を整備しました。

また、昭和八年に建てられ、現役の木造校舎として使用されていた国の登録有形文化財、長井小学校の第一校舎にリノベーションを施し、平成三十一年四月、学びと交流の施設「旧長井小学校第一校舎」としてオープンしています。

令和二年には市民文化会館をリニューアルし、さらに

は、長井駅と一体化して価値を高めた市庁舎を令和三年五月に開庁しました。

現在は、「第三期都市再生整備計画」（令和元年度～令和五年度）に基づき、まちなかの整備を進めています。国土交通省都市局所管の「都市構造再編集中央支援事業」を活用し、立地適正化計画で設定した都市機能誘導区域において都市機能の充実を図るもので、複合施設の整備を始め、公立置賜長井病院の建替え、市道の整備、県道の街路事業（拡幅整備）に合わせた街路灯の設置などを実施しています。



市内の子育て中の方々からは、「季節や天候に左右されない屋内型の遊戯施設」「保護者同士で情報交換や交流ができる場所」「小さな子どもを一緒に預けられる施設」などの要望が多く、また、「飲み物を片手に本を読むことができる場所」「幅広い世代の人がゆっくりと過ごすことができる場所」などの要望もありました。

これらの声を受け、平成三十年に基

本計画を策定し、子育て世代活動支援センターと図書館を併設した複合施設「遊びと学びの交流施設」を整備することとしました。

建設場所は、長井駅（市庁舎）の隣接地で、グンゼ関連の工場跡地です。大正三年に長井軽便鉄道（現フラワー長井線）が長井駅まで開通すると、大正九年、誘致企業第一号として、郡是製絲長井工場がこの地で操業を開始しました。昭和五十一年に肌着の縫製工場に転換し、令和二年までちょうど一〇〇年間操業していた土地です。

本施設は、長井市、グンゼ(株)及びグンゼ開発(株)の三者による官民連携で整備を進めています。グンゼ開発(株)が統括するプロジェクトチームが設計・施工を行い、完成後に長井市が買い取るものです。これにより、整備に係る時間と費用の大幅な縮減を実現できています。令和三年十月に着工し、令和五年三月末までに建物完成、その後外構工事を進め、七月末までに全て完成する予定です。

建物を上から見ると、郡是製絲にちなみ、繭をモチーフにした丸みを



帯びた形状で、正面から見ると、長井盆地を囲む朝日山の稜線との調和を図ったデザインです。正面玄関まで続く屋根付きの歩廊を設け、隣接する長井駅（市庁舎）からの動線も確保します。

●子育て世代活動支援センター

育児のために活動を制限されがちな方々が、まちなかでの買い物やサークル活動、イベント参加など、お出かけできるように応援する施設です。育児に関する相談ができる「子育て支援センター」を本施設に入れ、乳幼児の一時預かり機能、ファミリー・サポート・センター機能を持たせます。また、親子で楽しく利用できる屋内遊戯場も備えます。遊戯場から出入りできる多目的ルームは、普段は開放し、おやつを食べたりジュースを飲んだりできるようにします。なので、保護者同士の交流の場とするなど、自由に利用していただけます。

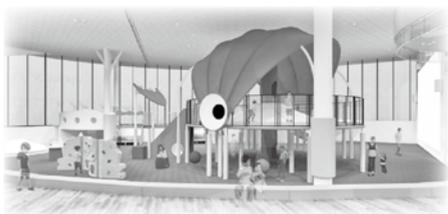
遊戯場の中は、手前に、よちよち歩きぐらいまでの子どもが遊ぶ専用エリアや、組み立ておもちゃ



やままごとで遊ぶエリアがあり、階段を上れば、親子で読書できるスペースです。奥は、滑り台やトランポリンなど、体を使って小学生まで遊べるエリアです。東北最大級の広さを有するボールプールがあり、その中では大きなクジラが子ども達を待っています。ボールプールのボールを使って遊べるデジタルウォールは海底が舞台で、ボールプールから続く海底探検気分を味わえます。

●市立図書館

開放的なデザインに加え、同一建物内に、子育て支援機能や楽しさいっぱいの遊戯場、寛げるラウンジがあるという特徴を活かし、親しみやすさと利便性を追求します。蓋付きの飲み物を持ち込むことができ、「自宅」「学校や職場」に続く「第三の場所(サード・プレイス)」として、どの世代の方々でも気軽に利用できる、居心地の良い空間を演出します。入口正面には受付カウンターとレファレンス専用のカウンターを設け、利用者からの質問や相談を受けて利用者が必要としている情報や資料を探すお



手伝いを充実させます。

また、ICタグ管理や、自動検索機、書籍除菌機、自動貸出機、読書記録帳機などの導入により、快適かつ安心して利用いただくことができます。

子どもと大人が同じ空間で過ごせるよう、館内は壁や仕切りを極力無くし、レイアウト等の工夫により、奥に行くほど静かで落ち着いた雰囲気になります。

気になります。

子どもの声などが聞こえ、やや賑やかになる児童図書コーナーを事前に配置し、絵本の世界に没頭できる籠れるドームや、子どもが寝転がることもできる小上がりを設けます。一般図書コーナーでは、窓沿いにはカウンターテーブル、ソファなど変化に富んだ閲覧席が並び、奥には集中して作業できる半個室的なコワーキングスペース





が並びます。

新しい市立図書館は、幅広い方々が様々な角度から「学べる場」や、市内の学校や施設、団体などと連携し、まちづくり、賑わいづくりの取組に積極的に関わる「つながる場」を提供し、単に本を読んだり借りたりする場所ではない、まちづくりの一翼を担う多機能型図書館となります。

施設に愛着を持つていただくため、施設の愛称を公募しました。昨年末から約一か月間募集したところ、全国から約四〇〇件の応募があり、市内の女性が考案した「くるんと」に決まりました。「蚕を優しく包む(くるむ)繭のように、子ども達の成長を見守ってくれる場所」「遊びに学びに何度も来る場所」「子ども達が、くるんくるんとでんぐり返したりしながら、元気に遊びまわる楽しい様子」などの想いが込められています。

遊びと学びの交流施設「くるんと」は、ぶらりと立ち寄ってもいつも何か楽しいことが待っている、何度も訪

れたくなる施設を目指します。

都市構造再編集支援事業を活用した第三期都市再生整備計画では、このほか、旧庁舎の跡地利用に係る整備と賑わい創出事業を行います。

旧本庁舎と旧第二庁舎を解体し、跡地を市民の憩いの場やイベント会場など、市内外の方々幅広く利用していただけるようにします。まちなかにこのようなスポットを設けることで、まちなかを人が歩き、賑わいが生まれる空間を目指します。

本計画の最終年度となる令和五年度は、「くるんと」のオープン後に、まちなか一帯をエリアとした賑わい創出イベントを実施する予定です。まちの活性化の方法を探り、これを契機として、商店街などの方々が自分たちで継続して取り組むことができる仕組みを構築し、まちなかの賑わいや空き店舗の活用に繋げることが狙いです。

「くるんと」が、まちなかの人の流れを作るきっかけとなり、賑わい創出の「核」としての役割を担うことで、このエリア一帯がひとつのテーマパークとなるような「持続可能なまち」を目指します。

南陽市

人と世界と 「つながる」 南陽市

公益財団法人米沢有為会の皆さまには、常日頃より当市の市政発展にご協力いただいておりますことに、衷心より感謝申し上げます。

今年六月にオープンした、南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こっと」、青年教育推進事業で実施している「置賜地区高校生まちづくりワークショップ」、そして、南陽を世界ブランドとして発信していくための核である「四季南陽」事業の進捗状況についてご紹介いたします。

南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こっと」オープン

皆さまが待ちに待った南陽市公衆浴場「赤湯温泉 湯こっと」が令和四年六月五日、市街地中心部の旧市民会館跡地にオープンしました。昨年度の会誌でもご紹介した通り、施設・設備の老朽化や生活スタイルの変化による利用者の減少という課題解決のために、二つの公衆浴場「とわの湯」・「あずま湯」と、高齢者保養施設「老人いこいの家」、さらに源泉管理と温泉供給を行っている

「温泉事務所」を統合して誕生したのがその経緯です。なお、建設整備を進めるにあたっては、国の地方創生拠点整備交付金の採択を受けて市で整備を行ってききましたが、その管理運営については指定管理者制度を導入することになり、これまで長きに渡り赤湯の公衆浴場の運営を担ってきた赤湯財産区を指定管

理者に指定し、従来とは異なる管理運営手法を用いて船出を切るようになりました。

外観は、赤湯温泉街の景観に配慮し、日本の伝統建築を表現した落ち着きのある入母屋づくりを採用し、屋根は採光と換気機能を、建物の外周には雁木空間として深い軒を持たせ、より多くの利用者呼び込み賑わいを創出できるようにイメージして整備を行っています。内部に



オープン以来、多数の来場者から好評の「赤湯温泉 湯こっと」

ついでには、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを導入するとともに、障がいのある方や高齢者などに十分配慮したバリアフリー化や手すりの設置など利用者に寄り添った施設を意識し、構造や内装に木材をふんだんに利用することで心安らぐ温かい雰囲気建物となりました。源泉かけ流しの大浴場は好みに応じて熱め（四十三度）とぬるめ（四十一度）があり、お好みの湯温をお選びいただけます。露天風呂は市街地にありながらもプライバシーの保護にも十分配慮した構造で、外部の目を気にすることなく四季折々の風情を感じることができます。そして、障がいのある方や介護が必要な方が利用できるバリアフリー浴室は、置賜地域の公衆浴場では初めての導入となり、介助者とともに安心安全に入浴ができる設備として、これまでの公衆浴場では利用がかなわなかった方でも温泉を楽しむことができますと大変ご好評をいただいているところです。



置賜地域の公衆浴場では、初のバリアフリー浴室

また、玄関入り口の交流ラウンジは、浴場の利用に関わらず誰でもお立ち寄りいただけます。解放感がありゆったりとくつろぐことができます。この空間には、コイン式ワインサーバーや地産飲料などを扱う自動販売機を設置しており、地元六社のワインナリーの個性豊かなワインやぶどうジュースなどを気軽に楽しむことができます。加えて、温泉街に面している立地の良さなので、南陽市観光や街歩きの出点としてもご利用いただくとともに、訪問できるワイナリーもすぐ近くにあるので、お風呂あがりなどに訪ねてみるのもおすすめです。

オープンから数か月を経過したばかりですが、お陰様で今のところ、これまでの利用者だけでなく、市内外から多くの利用者にご来館いただき大変盛況となっております。また、従来の公衆浴場に比べ、お子さんの利用やご家族での利用が増えており幅広い世代の方々にご利用



好みに応じて異なる湯温を楽しむ大浴場

いただいていることや、特に市外・県外からの新しい利用者の開拓につながっていることは大変喜ばしいことでもあります。これからも末永く皆さまに親しまれる憩いの場を目指すとともに、市内外問わず老若男女多くの人々がつどう「温泉×観光×福祉」が融合した市を代表する施設として、温泉文化を後世に引き継ぎながらも地域に活気や活力をもたらすことができるよう願っています。

「つながり」の大切さ

「置賜地区高校生まちづくりワークショップ」は、地域で活動する青年グループである「南陽青年団」と市教育委員会社会教育課に事務局を置く「南陽市青年教育推進事業実行委員会」が共催する、置賜地区全域の高校生を対象としたワークショップです。

この事業は、高校生が地域における多様な「つながり」の大切さに気付くこと



置賜地域全域の高校生を対象としたワークショップ

を目的としており、地域の方々と直接対話しまちづくりを考えるプログラムを通して、地域を形成する人のつながりを感じてもらおうねらいがあります。

開催のきっかけは、新型コロナウイルス感染症の流行により、高校生の体験の場や人と交流する機会が減ってしまったことです。そこから、地域との交流を基軸に活動を展開している南陽青年団と市青年教育推進事業実行委員会と協働での企画がスタートしました。

この事業の根底には、次代を担う若者の育成という目的があります。対話やグループワークを中心としたプログラムに青年がファシリテーターとして寄り添うことによって、地域という横のつながりだけでなく、先輩（地



多様な立場の地域の方々と高校生が対話



年代の近い南陽青年団から刺激を受ける高校生

域の方々や青年」と後輩（高校生）という縦のつながりも生み出そうとしています。高校生の学びの場とするだけではなく、その支援者として青年が深く関わり、互いに学び合う中で関係性を築いていくことがこの事業の特徴と言えます。

初めての開催となった令和二年度は、グループ毎に地域の課題を採るフィールドワークを経てまちづくりの企画書を作成するという三日間の日程に高校生二十九名と青年十四名が参加し、「地域をどう良くしていくか？」を考えるプログラムとなりました。

二回目の開催となった今年度は視点を換え、地域の方々にインタビュールすることでおの方の地域での暮らし方・生き方を学び、自分と照らし合わせて理想の将来を

描くという二日間の日程に高校生三十名と青年十三名が参加し、「地域の中でどう生きていくか？」を考えるプログラムとなりました。

参加した高校生は「周りの人に支えてもらうことは大切だと思った」、「青年団や地域の方がいろいろなこと挑戦していてカッコいいと思った」などの感想を述べていることから、地域の人の「つながり」を少しでも体感できたのではないかと思います。

今後も高校生や地域、青年団の皆さまの力をお借りしながら、地域の「つながり」を築いていく事業に取り組んでまいります。

『四季南陽（旧ハイジアパーク南陽）』事業計画について

令和三年三月三十一日をもって閉館し、同年九月に株式会社四季南陽に譲渡した旧ハイジアパーク南陽については、代表取締役の奥山清行氏より立地条件を利用した宿泊施設の整備をはじめ、温泉や食事、遊びや体験を通して楽しめる複合リゾート施設の整備を計画いただいております。また、南陽市の優れた食品を基に商品開発を行い、それらの情報発信により「南陽を世界ブランドに」育てていただくことに大いに期待を寄せているところで



ハイジア旧館はショップやマルシェとして活用

す。

そしてこの度、株式会社四季南陽の事業進捗状況等（計画の一部変更）について、奥山清行代表取締役から次のような報告がありましたのでお知らせします。

①南陽を世界ブランドとして発信していく核としての「四季南陽」のコンセプトはそのまま

まとしてつつ、スケジュールの変更を行います。

②旧ハイジアパーク南陽の旧館改修を先行させ、文化施設として令和五年秋に開館を目指します。

③宿泊施設としての新館については、三年程度遅らせての実施に変更します。

また、奥山代表からは、「建築家の隈研吾さんとシエフの奥田政行さんは南陽市を非常に愛されているお二人ですので、この事業に関係することに今後も変わりはない

い」旨の説明がありました。

なお、旧館の具体的な活用については、

①KEN OKUYAMA DESIGN コンファレンスセンターを開設し、各界のクリエイティブな人々を集めた定期的講演会を開催いたします。

②KODミュージアムおよびショップ、地元の食材を販売するプレミアムマルシェ、イザベラバードギャラリーも開設いたします。

③温泉に関しては新館開設まで温存します。

南陽市では、今後も株式会社四季南陽と調整を図りながら、「南陽を世界ブランド」にすべく事業計画の実現に向け、継続して連携を密にとつてまいります。



温泉リゾート施設「四季南陽」記者発表会

高 畠 町

「高畠町リーダー経営人材育成塾」

近年、人口減少と少子高齢化に代表される市場環境の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル化及びグローバル化により、地域をとりまく環境は急速に変化しています。それらの激しい変化に対応するため、地域産業の担い手となる経営人材の発掘と育成を当町の重点課題に捉え、当町の地域経済を維持・発展させ、町の将来を担うリーダー経営人材を育成することを目的として、令和四年度に「高畠町リーダー経営人材育成塾」を開講いたしました。ほんの少しですが、その取り組みについてご紹介いたします。

令和四年九月からスタートしたこの事業は、有限責任監査法人トーマツに企画や運営、支援を依頼し、約半年をかけて各事業構想書の策定を目指すものです。七月に受講生を募集したところ、町内各分野の企業経営者や次期経営者、個人事業主の方、六名から応募がありました。

目標として、第一点は、各事業所の経営課題をあぶり出し、その解決策と実践の具体的なステップと目標値を見出すこと。第二点として、個別戦略と数値計画を連動させて考えること。第三点として、時代の流れを捉え、より高収益な事業構築について構想し、経営に活用できる基礎ができること。そして、最後に当町の地域課題を理解し、各事業所が地域に対し貢献できる分野が明確になり、それが事業構想と連動していること。これら四点を目標とし、月一回二日間の頻度で開催される講座と、オンラインによるグループメンタリング（対話型セッション）を行うものです。

当町での開講を前に、既に開講している宮城県気仙沼市の「人材育成塾」を町商工観光課の職員二名が訪れ、セッションの様子や事務局側の具体的なサポート内容等を視察いたしました。東日本大震災後、ゼロからのスタートの中、事務局である職員と企業との繋がりが密になり、それぞれの立場を越えて「地域のため」に取り組みられている姿が印象的でした。

当町においても、「伴走者」という役割で、若手の町職員四名が受講生への連絡調整や事前課題の取りまとめ

などの事務を担当します。担当部署の枠を超え、様々な業種の企業と接点を持ち、「地域のため」にその時間を共有することは、その職員自身のスキルアップは勿論、行政にとっても大きなメリットがあるものと期待しております。

そして、過日「高島町リーダー経営人財育成塾」がいよいよ開講し、記念講演・パネルディスカッションとして、気仙沼市の取り組みが紹介されました。東日本震災被災後、「育成塾」を通じて、企業そして地域の課題解決に向けた海外への展開、また地方で働くことの大切さを伝えるため、中高生に対し取り組んでいる「地域教育」等の紹介があり、大変感銘を受けました。よく耳にする言葉ですが、まさに「人づくり」が「まちづくり」ではないでしょうか。（気仙沼市の取り組みから学んだことと、人は「宝」であるという想いを込めて、今事業では「人財」という字をあえて使用しています。）各々の描く「これからの高島町」ビジョン実現に向けて、今動き出したばかりです。多様な視野から地域が抱える課題解決に挑戦し、地域の未来を担う人材が輩出される日も近いと確信しております。



川西町

今年八月三日、北日本で初めて発生した線状降水帯による大雨で水害が発生し、町内では三〇〇棟を超える住宅被害をはじめ、農地や道路の破損、ため池の決壊など甚大な被害を受けました。川西ダリヤ園も園内全域が冠水し、土砂の流入、球根の流出、施設の破損などの被害により、休園を余儀なくされました。

その後、ダリヤ園の再開に向け、ダリア関係者をはじめ、置賜農業高校の生徒や、毎年ダリヤ園周辺で開催されるマウンテンバイク大会の参加者など県内外から大勢のボランティアの皆様にご協力をいただきました。

八月の豪雨そして長雨による日照不足と生育環境には恵まれませんでしたが、懸命な努力により開園記念日にあたる九月二十一日に再オープンを迎えることができ、勢いがあり色鮮やかダリアを多くの皆様楽しんでいただくことができました。

この度の水害ではダリヤ園だけではなく、床上・床下浸水となった住宅の復旧支援などにも述べ八〇〇人を超えるボランティアの皆様のご協力をいただいております。皆様のご支援に感謝いたします。

今年、公立置賜総合病院周辺のメデイカルタウン整備事業で、医療機関や店舗の建設、宅地分譲など目に見える前進がありましたのでご紹介いたします。

姿が見えてきたメデイカルタウン

町では、人口流出抑制・流入促進、地域経済の活性化を目標とする「第二期川西町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、メデイカルタウン整備（公立置賜総合病院周辺土地利活用）をリーディングプロジェクトに位置付け、しごとの創生、ひとの創生、まちの創生を推進しています。

メデイカルタウン整備区域である公立置賜総合病院周辺は、置賜圏域の中心に位置し、国道一三三号、国道二八七号長井南バイパス、整備が進む新潟山形南部連絡道路（梨郷道路）の結節点としての地理的優位性を有するエリアです。

この整備事業では、この優位性を生かしながら「医療」「住宅」「商業」等が融合した整備を進めてきました。現在は具体的な開発が進み、整備の姿が見えてきたところです。

「医療」では、令和二年七月一日に「おきたまフラワークリニック（内科・外科・総合診療科）」、令和四年六月

一日に「いなげ内科呼吸内科」、「置賜・整形外科まつきクリニック」、「なないろ薬局」が開院されました。このことにより、一次診療を担う開業医の充実と高度医療を担う公立置賜総合病院の連携がさらに強化され、住民の健康が守られていきます。

「住宅」では、山形県住宅供給公社と連携を図り、約七十haに十七区画の分譲地を整備しました。愛着がわく分譲地とするために愛称を広く公募し、「メデイカルタウン 虹の見える丘」と命名。分譲地は八十坪から一三〇坪で雪対策も十分に考慮した間口の広いゆとりある住環境としました。さらに、昨今の住宅事情を踏まえ、最大で二一〇万の支援制度も創設しました。九月末時点では六件の申し込みもあり、着目度も高まっています。

「商業」では、県内で最大のスーパーマーケットである株式会社ヤマザワ、ツルハドラッグの出店が決定され、ツルハドラッグは令和四年十一月十日、株式会社ヤマザワは令和五年春のオープンが予定されており利便性も高まっています。

今後も分譲区画の拡張、商業エリアへの企業誘致も予定しており、さらに利便性を高めながら本町の最大の課題である人口減少を克服していきます。



再オープンしたダリヤ園

撮影日：令和2年6月4日



撮影日：令和4年9月11日



● 新潟山形南部連絡道路（梨郷道路）のインターチェンジ

姿が見えてきたメディカルタウン

小国町

小国らしい暮らし方・働き方

～はじまる・ひろがる・おぐマル～

自然豊かな魅力的な暮らしと多様な働き方を組み合わせ、新たな生活スタイルとして注目されるマルチワーク。本町では、小国らしい暮らし方・働き方にかかる調査研究に令和元年度から取り組み、マルチワークの仕組みづくりとして事業主体の組合設立に向け、賛同事業者やマルチワーカーの確保などを行ってきました。昨年十一月から動き出したマルチワークの仕組みと取り組み状況を紹介します。

○労働力が足りない

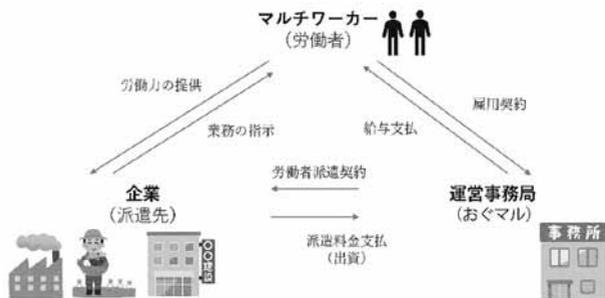
本町の人口は昭和三十五年に一七七八七人でしたが、その後減少を続け、令和四年四月三十日現在で、七〇一六人となりました。このため、働き手となる十五～六十四歳代の生産年齢人口も過去三十年で約半数になつています。そうした要因により、地域の担い手が少なくなつていきます。特に近年、町内企業では、人材不足が大きな課題となっております。令和元年四月の高卒採用で

は募集人員の三十・八%しか人材確保ができていない現状です。

こうした課題に対応し、担い手や労働人口として期待されるのは移住者の確保です。これまでの移住相談等の中で、マタギやつる細工などの本町独自の伝統的な働き方に興味を持つ方が多い一方、それだけでは、収入面で生活に不安を感じる声が多く聞かれました。そこで町では、移住定住の促進と担い手不足の解決に向け、『小国らしい暮らし方・働き方』に関する調査を進め、この問題を解決する方策の一つとして、着目したのが、『マルチワーク』です。これは、既に島根県海士町で導入されており、一つの仕事だけに従事するのではなく、複数の仕事を組み合わせて通年で働いて生活するものです。

○マルチワークという仕組みの必要性

様々な業務の組み合わせやマルチワーカー（派遣労働者）の確保、就業体制の確立など、マルチワークを導入する中で必要な業務を担う『おぐにマルチワーク事業協同組合』（吉田悠斗代表理事）（以下おぐマル）が令和三年十月に設立されました。同組合は、町が取り組んできた調査で整理したマルチワーク事業を進める主体として、総務省の『特定地域づくり事業協同組合』制度を活用しています。この制度は組合で職員を雇用し、事業者



に派遣できる制度で、担い手を確保するための組合の運営にかかる経費の一部に国や町の助成金を活用できるものとなっています。

おぐマルが設立されたことで、事業者と移住者双方に大きなメリットがあります。それは、これまで移住を検討するかたは、知らない町で、どういった仕事があるかわからない中、求人情報から仕事を探すことしかできず、事業所も移住者の求める働き方等の詳細情報を把握できない状況で、

求人を実施していませんでした。また、農家等は繁忙期に必要な人手を確保する方法がありませんでした。

そうしたニーズのマッチングを窓口一つで可能とするのが、おぐマルの最大の特徴です。事業所は必要な時期に必要な人材を求め、移住者は様々な業種から選択して、

生活や収入を考えながら仕事を組み合わせることができ

ます。このような新しい働き方で、移住のハードルを下げる

○おぐマル代表理事 吉田悠斗氏

務めたあと、おぐマルの設立とともに代表理事に就任しました。おぐマルの可能性について「企業の労働力だけでなく、農家でも、田植えや稲刈りを手伝ってくれる親戚などの減少で、担い手が必要になっています。このように、様々な分野で人手が不足しています。多様な業種を組み合わせ、一年間を通した働き方にする事で、収入に不安を感じるかたや生活に自由度を求めるかたなど、移住者の多様な要望にも対応できる暮らし方の提案が可能になると考えています。

これまで地域おこし協力隊が移住定住への最初のステップとして選択される場合が多かったですが、今後は収入面で安定したマルチワーカーも、その選択肢の一つになることを期待しています。そして、移住窓口としての役割も担っていければと考えています。」と話してください

いました。

○マルチワーカー 石村瑠理氏

昨年十一月に、全国各地から町内へマルチワーカー三人が移住、また、本年四月には町内出身者で東京から町にUターンしたかた一人も加入し、四人が就業しています（一人は都内からリモート勤務）。

愛媛県出身の石村瑠理さんは、緑のふるさと協力隊として岡山県鏡野町で活動していましたが、任期満了後、やりたいことが一つに絞れず、悩んでいた時に、おぐマルの体験ツアーに参加し、マルチワーカーとして当町への移住を決断しました。石村さんは「十一月からガソリンスタンド、酒造会社を経て、現在は製造業に務めています。週三日勤務し、その他は、山菜取りなど、町での生活を楽しんでいきます。そうした中でも、安定した収入を得ることができていることがおぐマルの一番の魅力だと思います。移住の受け皿として非常に良いと思います。今後小国ならではの業種で働き、今後どういった働き方ができるか模索していきたいと考えています。」と話し、新たな生活スタイルに手ごたえを感じていました。

○賛同事業者 荒川興業(株) 鈴木義昭専務

「求人募集をしても、応募が少ないのが現状です。」そ

う話してくださったのは、荒川興業(株)の鈴木義昭専務です。同社は、マルチワークに賛同した十四事業者の一つで、鈴木専務はおぐマルの理事も務めています。鈴木専務は「四月からマルチワーカーが勤めています。新入社員と同じように働いてもらい、少しでも業務に興味を持ってもらえればと考えています。なかなかフルタイムで働いてもらえる社員が集まらないので、新しい働き方を模索しており、こうしてマルチワーカーに短期間でも入ってもらうことで、就職へのいきつかけ作りになることを期待しています。また、繁忙期のはつきりしている事業所だけでは、業務の組み合わせが困難になる場合がありますので、年間を通して雇用できる業種も必要だと考えています。今後、町の人口が減少していく中で、マルチワーカーが増え、町の活性化につながれば嬉しいです。」と鈴木専務は事業所としての今後の希望を話してくださいました。

○課題を丁寧に解決し労働力不足解消へ

マルチワーカーが働き始めて半年以上が経過しましたが、新たな課題も明らかになってきています。一つは、短期就業のため、マルチワーカーが変わる度に仕事を一から教えることになることです。そのため、非効率ではないかとの懸念も生まれています。また、現在の十四の

登録事業所に対し、マルチワーカーは四人のため、事業所の希望通りの派遣ができていません。そうした課題解決のため、一定期間マルチワーカーの職業訓練を行うことから派遣することや、三年間を一サイクルと考えた働き手毎のコース作りをして、移住者から、暮らし方・働き方をイメージしてもらいやすくする工夫も必要と吉田代表理事は話します。そうしてマルチワーカーを確保するとともに、事業所の要望に応えることで、今後の事業拡大に繋がり、人口減少が進む本町において最終目標である『事業所の労働力不足解消』が見えてくるのだと言えます。

本町には「春は山菜をとって、熊を狩る。夏は野菜を育て、川で釣りをする。秋は米やきのこ、山葡萄などを収穫する。冬はつる細工などの手仕事をしてお酒や味噌を仕込む。(※おぐマルホームページ抜粋)」そうした『おぐにらしい暮らし方・働き方』がありました。町民には当たり前の生活スタイルでも、それが、移住を希望するかたがたには、輝いて見えるようです。現在では、その一つ一つでは、生計を立てることが難しいものの、魅力あふれる小国らしい仕事です。それらを組み合わせることで、本町でしか体験すること

のできない新しい暮らし方や働き方になると考えます。町は、今後も様々なかたと協力し、チャレンジを続け、課題解決を目指していきます。



おぐマル

おぐにマルチワーク事業協同組合

白鷹町

白鷹町は、山形県の南西部、置賜盆地の北部に位置し、東西約十七km、南北約十六kmのほぼ正方形に近い形をしております。本町は、朝日連峰、白鷹丘陵により三方が山で囲まれた盆地を形成し、その中に水田が広がる自然豊かな町です。春の古典桜、夏の紅花、秋の鮎、冬の蕎麦と、四季それぞれの素材をテーマにした観光四シーズンの推進により、交流人口の拡大が図られています。特



に、紅花については、山形県内生産量の約六割を占め、生産量日本一の町として、「日本の紅(あか)をつくる町」を掲げ、シラタカ・レッド商品の開発や交流、健康づくりなど、紅をテーマとした地域活性化に取り組んでいます。

令和四年度は、第六次総合計画の前期基本計画の中間年の年度であり、

新時代の過疎対策としての「過疎地域の持続的発展」及びSDGsの視点を踏まえつつ、

新たな将来像の実現に向け、それぞれの特徴ある地域資源を活かし、相互補完し連携するコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの考え方を基本に、人材確保、脱炭素化の実現、DX推進の視点をもって、重点分野である「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」を施策の柱として着実に進め、暮らし・社会・経済が統合する持続可能なまちづくりを目指しています。

【保育料の完全無償化】

昨今の出生数の急激な減少という危機的状況ではありますが、本町に住む子育て世代の方々とともに仕事と子育てを両立でき、安心して出産、子育てができる環境整





保育料無償化

備をさらに進めることにより、出生数の維持、定住促進に資するよう、引き続き、結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援のほか、婚活サポートなども含め、少子化対策を総合的に推進してまいります。

さらに令和四年度より幼児教育・保育に関するサービスタについて、全年齢の保育料完全無償化に加え、副食費も無償化し、保育に関する経済的負担を緩和することで子育て世帯への支援に取り組んでおります。また、医療的ケアが必要なお子さんが保育所等への入所を希望された際の受入体制の整備に努めてまいります。

【持続可能な循環資源の利用】 「白鷹町ゼロカーボンシティ宣言」

白鷹町では令和三年十一月にゼロカーボンシティ宣言

を行い地球温暖化対策への決意を表明し、併せて地球温暖化対策実行計画を策定しております。これらに基づき、町民・事業所・行政が一体となってゼロカーボンの実現へ向かうことができるよう取り組んでおります。具体的には、省エネルギー対策として、ごみの減量化対策等を継続して実施しつつ、再生可能エネルギーの活用を推進するため太陽光発電設備や木質バイオマス燃焼器設置に対する助成を拡充して実施いたします。さらに、地球温暖化対策を自分事として取り組んでいただくよう、地球温暖化防止セミナーの開催やグリーンカーテン事業を実施するなど普及啓発に努めてまいります。今後も豊かな自然環境を守り、次世代へ引き継いでいくため、白鷹町は二〇五〇年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦します。



ゼロカーボンシティ

飯 豊 町

自然・文化と最先端科学技術が融合する まちをめざして

平成三十年、飯豊町はSDGs未来都市の選定を受けました。SDGsの理念「誰一人取り残さない社会の実現」を目指し、課題が山積する困難な時代こそ未来のあるべき姿を描き、何をすべきか考え、語り合うこと、それこそが大切です。次の世代へこの美しい飯豊の地を継承していくため、これまでの歩みを止めることなく、新たな「手づくりのまち いいで」に向けて取り組みを進めていきます。

本町の豊かな自然や文化を資源とし、最先端科学技術が融合する新たな産業構造を創造することをめざし、町、山形大学、山形銀行と三者連携で取り組んでいる「飯豊電池バレー構想（以下「電池バレー構想」）は、始動から七年が経過しました。町内の主要企業の撤退を契機に始まったこの構想は、持続可能な環境優先の社会実現に向けて着実に前進しています。



◆電池バレー構想の経過

平成二十五年四月、飯豊町に工場を構えていた旧株式会社DF（現東芝ライテック㈱）の吸収合併を受け、空き工場の利活用検討が始まりました。山形大学からの提案を受けて、空き工場跡地に飯豊町起業支援施設が整備され、町、山形大学、山形銀行の三者連携協定が締結されました。

同施設では、最先端科学技術を活用して、リチウムイオン電池の研究開発が行われています。また、町内雇用を創出するため、飯豊町貸工場を整備しました。企業が貸工場を活用し、操作することで、町内に雇用創出の機会を生み出すことを可能にしました。

これらの電池バレー構想の取り組みに



屋台村「i i d e r a」

より、来町者数の増加が見込まれることから、これを商業活性化の機会と捉え「HOTEL SLOW VILLAGE」と飯豊型屋台村「i i d e r a」が開業し、町を訪れる国内外の多くの方々に、地域の食や文化を通して町の魅力を発信する機会を創出することができるようになりました。

このように、飯豊町では電池バレー構想に「雇用の創出」「交流人口の拡大」「人材育成」の三つの柱を掲げ、産業の振興、町内経済の活性化に向けて取り組んでいます。

当構想の施設整備は計約三十三億円の予算で行われました。この予算には国からの財政支援が受けられる過疎対策事業債をはじめ各種支援策が活用され、実質的な町の負担は1/6以下です。町負担部分についても施設の



HOTEL SLOW VILLAGE

使用料により回収する事業モデルとなっており、町の一般財源の負担を極力少なくした地方創生施策の一つです。

◆電動モビリティシステム専門職大 学の誘致

東北初の専門職大学で日本初の「電気自動車・自動運転の教育・研究に特化した専門職大学」令和五年四月一日開学予定



飯豊町貸工場

◇専門職大学の誘致が意味すること

全国的な人口減少時代に突入し、特に地方での減少が進んでいます。人口減少はすなわち地域力の低下であり、それは産業の縮小につながり、仕事の減少や暮らしやすさの低下をもたらします。雇用減少や暮らしやすさが低下すれば、人は町外に仕事を求めて流出します。そうし

て人口減少の悪循環に陥り、「まち」の活力は減退してしまします。

本町においても例外ではなく、国立社会保障・人口問題研究所が推計した令和四十二（二〇六〇）年の町の人口は三三三三人であり、現在の人口の半数近くとなっています。人口減少対策は町の最重要課題の一つであり、解決すべき緊急の課題です。

専門職大学の開学は、「人が集まるかどうかからならぬ」将来を見通せない状態から「人が集まる」状況を生み出すきっかけとなり、人口減少の悪循環から脱却への道を開くことにつながります。

本町では、最先端科学技術の活用や再生可能エネルギーの生産と活用などによって持続可能な農村社会の復興を目標にしています。目標実現のためにはより多くの人材を継続的に育成・輩出していく必要があります。そのためにも、若者の流入と定住が必要であり、地域で人材を育成し、地域に就労するサイクルを確立することが重要です。

◇「電池」と「モビリティシステム」の

関連性

「世界最先端の電池」とは何か。現状では第一に「電気自動車に使用される電池」が挙げられます。そして、



電動モビリティシステム専門職大学

電気自動車に搭載される電池の開発技術は、いまだ発展途上の分野と言われています。これまでの化石燃料由来のエネルギー消費から再生可能エネルギー消費への転換を求められている現代において、世界中で急速に求められている電池関連技術の重要性は高く、同時に電気自動車

開発に関する
専門技術・人材へのニーズは、今後一層高まっていくと考えられます。

自動車産業界を取り巻く環境は、百年に一度の大きな変革期にあります。この世界的な変革は、本町の取り組みにとって追い風となるものであ

り、これまでの歩みが世界規模の潮流と同等のものであることも裏付けられました。

飯豊町起業支援施設での最先端科学技術による研究と連携しながら、最先端科学技術の習得、その技術のさらなる発展に寄与する人材を育成できる機関を整備することで、本町を拠点に国内外で活躍できる人材育成が可能となり、目標を実現することができると考えます。

令和五年四月の開学予定の電動モビリティシステム専門職大学では、産業界において第一線で活躍している実務家教員による実践的な教育が行われる予定です。

◆専門職大学に期待すること

大学生や大学関係者を呼び込むためには、魅力ある町をめざし、農村キャンパスとしての機能を充実させ、大学周辺の環境整備も進めていかなければなりません。

例えば、飲食店では利用の増加が期待され、これまではなかったメニューが開発されたり、デリバリーのような新たなサービス形態が創出されたり、若者向けのおしゃれな店舗が誕生したりと、新たな刺激が発生するところが考えられます。また、小売店では、若年層の流入によりこれまでとは異なる需要が生まれ、新たな販路拡大のチャンスにつながると予想されます。これまで本町に縁のなかった学生や大学関係者が集まり交流することに

より、本町の魅力体験ツアーなど、旅行系サービスや関連事業者への需要増や、若者向けのアパートなどが整備され、卒業後も本町に居住する学生が増えることで、町内各方面において、提供サービスの創造の余地が拡大し、町内経済への刺激が期待されます。このことは、学生や大学関係者だけの恩恵ではなく、町に住んでいる全ての町民にとって、生活の向上に寄与するものとなります。

また、大学においては電気自動車や自動運転など、電動モビリティシステムの研究が行われます。電気自動車の研究は、ゼロカーボンシティ宣言をしている本町の姿勢と合致しています。自動運転の研究は、公共交通機関が少なく移動手段が乏しい本町の地域課題解決に役立つなど、町民の生活環境の向上のための貴重なツールとなります。

電動モビリティシステム専門職大学の開学は、「自然・文化と最先端科学技術が融合するまちづくり」を具現化し、「日本で最も美しい村」の持続的発展の一助となると考えています。

◆ 〆がゆ 「うごきの未来」

本町は「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」をめぐり、さまざまなことに取り組んできました。

飯豊型ペレットストーブ開発と木質バイオマス燃料の

有効活用や、家畜排せつ物を原料とするバイオガス発電など、農林業と一体となった再生可能エネルギー生産の導入をしてきました。それにより、農村社会の持続的な発展に向けて歩みを進め、電池バレー構想も産業振興の観点からその一翼を担ってきました。

今後の社会の持続的発展のキーワードは、「資源循環」であると考えています。「エネルギー」「食」「住環境」などさまざまな分野において地域資源の有効活用を進め、生活圏外への依存度を下げていき、「域内循環社会」を構築していくことが「日本で最も美しい村」の持続的発展の鍵を握っています。

世界においてゼロカーボン社会に向けた動きが加速していることから、とりわけ再生可能エネルギーの生産設備の導入は急速に進んでいきます。電力会社における再生可能エネルギーの発電量が増加することで、各家庭に太陽光発電・蓄電設備や電気自動車が普及したり、さまざまな変化が起こっていきます。置賜管内においても、電力の域内消費を目指す地域電力会社「おきたま新電力」が設立されるなど、その兆しはすでに見えています。

本町は、これまでの成果を着実に前進させながら、これからも地域との連携を大切に、「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」「やっぱり、飯豊で幸せになる」未来の実現に向けまい進してまいります。

二〇二二年度 置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も確実に人口が減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域の安全・安心や伝統・文化の維持存続が益々懸念されます。そして、このような人口減少の要因の一つに、高校生の進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。こうした状況下において二年後に進学・就職を迎える高校二年生が、地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路を選ぶにしても非常に大事なことです。

以上のような趣旨から、「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第五回小論文コンテスト」を、高校二年生を対象に実施いたしました。テーマは「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」です。コロナ禍の中でも、八校から総数七十八名の応募があり、喜んでおります。応募された生徒の皆さんとご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。

小論文を読みますと、資料編を活用しあるいは自分の体験や知見を基にして、この地域の未来のあり方を様々な視点から提案し、また自分の生き方を模索しており、趣旨に沿った小論文をまとめてくれました。高校二年生の今、この小論文に取り組んだ経験はこれから先必ずどこかで役立つものと

確信しています。

この小冊子は、七名の審査により優れた小論文とされた、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選六点を収録したものです。高校生や地域の方々に広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思っております。

令和四年十月十七日

高校生小論文コンテスト実行委員会

二〇二二テーマ

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」

優 秀 小 論 文

最優秀賞 山形県立小国高等学校 二年 一柳 帆花
優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

山形県立小国高等学校 二年 今 向日葵

米沢商工会議所会頭賞

米沢中央高等学校 二年 安部 悠花

長井商工会議所会頭賞

山形県立長井高等学校 二年 伊東 美優

米沢信用金庫理事長賞

山形県立小国高等学校 二年 二宮 緋毬

地域の心をつなげる架け橋に

山形県立小国高等学校 二年

いち
柳 やなぎ
帆 ほ
花 か

「田舎を離れて都会に住みたい」私も将来地元を出ていきたいと考えていた一人だ。

今年の春、私は地域みらい留学生として小国町に来た。私の出身地である愛媛県久万高原町も、若者流出により高齢者が二人に一人の割合となり、自治体消滅が危惧されている。その町に住む私が、同じような問題を抱えている小国町へ留学を決意した理由は、地域の方が自ら企画し、運営する活動に興味を持ったからだ。私もその一員として参加したいと強く思った。そして、小国町で自分の得意なことをライフワークとし、社会貢献をしている地域の方々の生き方に胸が熱

くなった。改めて自分の生き方を見つめ直してみると、留学前の私は、やりたいことがあっても手を挙げられなかった。しかし、彼らの生き方を見て「やれることには挑戦したい」「私のふるさとである久万高原町も活気ある町にしたい」と強く思った。では、一度町を離れた若者のI・Uターンを促進し、みんなが住みやすい町づくりのためにできることは何か。

それは二つある。一つ目はPR活動だ。小国町には、子育て医療給付制度により十八歳まで医療費を助成したり、ファミリーサポーターサービスという、育児を行いたい方と手伝ってほしい方が会員となり相互に援助活動を行うサービスを提供したりするなど数え切れないほどの制度がある。医療給付制度については、該当している人がほぼ利用しているので、認知度が高い。しかし、ファミリーサポーターについては、妊娠後に情報提供をしていたくということもあり、認知度は低い。そこで、将来を担う私たち高校生にも発信をしたい。まずは妊婦さんや保健福祉課、保育園のニーズを調査し、SNSを活用して情報を発信したい。

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

自然が繋ぐ地域の輪

山形県立小国高等学校 二年

今^{こん}向日葵^{ひなた}

二つ目は、交流の場の創出だ。今年、全国小規模校サミットの運営を経験し、グループワークで一人ひとりが発言できる場づくりの大切さを学んだ。この経験を生かし、妊産婦さんの妊娠・出産・育児への不安や孤独感を緩和する意見交換の場を作りたい。町役場の方々などから助言をいただきながら、いつでも気軽に集まり育児の情報交換をし、「ともに子育てができる町」として、環境整備をしたい。子どもの存在は、周りの大人を自然に笑顔にするなど、影響力は大きい。

また、来年度、在籍校でもサミットのような地域活性化に関する意見交換の場を作りたい。同じ過疎で育ったとはいえ、考え方は多様であり、対話により問題解決の糸口が拡大する。地元愛を生み出せるようなサミット開催に向け、自ら行動を起こしたい。

残り半年の留学生活。小国町でプロジェクトを立ち上げ実践する活動に参加する。小国町でも、ふるさとの久万高原町でも、住んでいる人とともに、自信と誇りと幸せを感じられるよう、楽しみながら挑戦していきたい。

川のせせらぎが耳に優しく響く。足がすぐみそうな吊り橋を渡り、一本道を辿った先にあるのは、輝くような山菜だ。私は幼い頃から、祖父母やいとこ達と山菜採りに山に入っていた。ワクワク感と充実感。弾む会話とともに五感で自然を満喫していた。それが普通のことだった。

しかし、しだいに時間的にも精神的にもゆとりが少なくなり、休日はほぼ休息の時間になった。同時に、つまらない、面倒くさい、小国には面白いことが何もないとも思うようになった。

そんな私に驚きの変化が訪れた。きっかけの一つ目は、探究学習だ。「地域に浸る」をテーマとして、小国町や飯豊町の素敵な大人に出会ったり、動物や自然に触れたりした。未知の小国・新しい小国の発見で、小さい頃に感じたワクワク感が再び溢れてきた。

二つ目は、地域みらい留学生との出会いだ。魅力に乏しいはずの小国町を選んでくれたことが不思議だった。しかし、豊かな自然や優しい人たち、雪国ならではの体験：それら全てを全身で楽しめるのが小国町なのだと話してくれた。小国町への誇りが復活し、自分の過去の体験を自分自身が肯定できた瞬間だった。

そして久しぶりに今年の夏、私は山へ入った。自然の恵みや協働体験の喜びを存分に味わった。そしてふと思った。山に入って山菜採りを楽しむ若者が減っている、と。私は、本が好きで絵を描くことも好きなのだが、それを活かして、小さい子にもわかりやすい絵本や紙芝居などを作って山菜採りの面白さをPRしたいと考えるようになった。一度、山の魅力を見失った経験を持つ高校生の私だからこそ発信できることがあ

る。それが、ひいては、この置賜地区の若者回帰に繋がるのではないかと考える。

私は、手始めに、グラフィックレコーディングに挑戦した。グラフィックレコーディングとは、模造紙などに、会議や講話の内容を、文字とイラストを使ってわかりやすく記録する方法だ。先月、小国高校主催で、全国から様々な高校が集まって、自分達と地域の未来について考えを深め合う全国小規模校サミットがあった。各校の取り組みを瞬時に可視化するこの役割は、絵本と共通する点もあり、立候補したのだ。先輩たちとの協働で、発表内容を凝縮できたときは、達成感と感動で一杯になった。この体験を通して、作り上げる喜びを味わうとともに、マイプロの実践内容がより明確になり、一筋の大きな光が差し込んだように思われた。

地域活性化の対話や協働の様子や地域の魅力をPRすることで、小国町への理解が促進され、それが活性化に繋がるはずだ。小国町の魅力を私らしい感性で伝えたい。私は今、期待でワクワクしている。

米沢商工会議所会頭賞

米沢の明るい未来を守るために

米沢中央高等学校 二年

安部 悠花

私は将来、教員として地域に貢献したいと考えている。そして、教育現場から、自慢の故郷米沢の未来を支えていきたいと強く思う。

しかし、米沢市は人口減少の渦中にある。この状況下で、持続可能な地域とするために、主体的な魅力発信が重要であると私は考える。

米沢市では、二〇四五年の人口が二〇二〇年と比較して約三割減少すると推計されている。この原因は、若者の転出超過であるとされている。また、総務省実施のアンケートによると、良質な雇用機会の不足が人口流出の背景にあると考えられているようだ。

だが、資料から、山形県の労働環境は比較的恵まれていることが分かる。資料を見ると、山形県の年次有給休暇や女性の育児休暇の取得率は、全国平均を上

回っている。安定した収入が得られる正規雇用の割合も、全国トップ水準である。それにもかかわらず、若者は良質な雇用機会を求めて、都市圏へ流出する。それは、若者の山形県に対する固定観念による労働環境の周知不徹底が原因だと推測した。

以前、私は米沢に関する探究学習を通して、数多くの魅力を発見した。その中で、知名度の低い国指定史跡を有名にしようと、策を練った。熟考の末、幅広い世代から関心を得るためにキャラクターを作成し、扮装して有名な史跡でガイドを行うことにした。実践の中で、キャラクター由来の地を紹介すると、興味を持ってもらえて、大きな達成感が得られたことを覚えている。この経験を通して、故郷の魅力を発見し、自分なりに工夫しながら発信することの意義を身をもって感じた。

千葉県流山市では、市の魅力ある情報を発信することにより、子育て世帯の定住化を促進する活動を行っている。その結果、十年間で約四万人の人口増加を遂げた。このように、魅力発信は人口増加に効果的であると分かる。

私たちの地域と未来

山形県立長井高等学校 二年

伊東美優

そこで、学生による魅力発信活動の拡大を提案する。祭りや遺跡など、自ら発見した魅力をガイドやSNS等で発信する活動である。米沢市は流山市よりも人口規模が小さいため、いかに回帰を促進するかが鍵になると思う。自治体による情報発信に加えて、次世代を担う若者による主体的な魅力発信を行うことは、市の印象向上、さらに労働環境の周知に繋がるだろう。その結果、若者の定着、他県進学で専門知識や技術を修得した若者の回帰、県外からの移住を促進することができるはずだ。

米沢は今、人口減少の渦中にある。主体的な魅力発信等により、人口減少に歯止めをかけることで、持続可能な地域の礎を築くことができるだろう。教員を志す私の使命は、子ども達に魅力発見のきっかけを与えることだと考える。高校生である現在は、地域活動に積極的に参加し、視野を広げると共に、地域貢献に努めていきたい。そして、生涯を通じて、「為せば成る」の心を大切に、米沢の明るい未来を見据え、課題解決に尽力していく。

私たちが住む置賜地区は年々人口が減り、その上、私が住む高島町も六年前に町内の全ての中学校が合併するなど少子化も急速に進んでいる。資料3を見てみると、大学等進学者の約七十二パーセント以上の人が県外へ進学していることが分かる。実際に私の友人や先輩方も県外に進学したいという人がほとんどだ。確かに、県外へ出れば学びの幅が広がったり、最先端の学びを得られたりするかもしれない。しかし、大学等を卒業した後、山形に戻ってきて、それらを活かすことはできないだろうか。私はUターンを促進し、山形で働く人を増やすということが未来の置賜地区を支えるために必要だと思う。

私は公務員の道に進み山形県に貢献したいと考えている。私が公務員になったら、若者に地域の魅力を伝え、若者たちがまだ気付いていない地域の良いところを普及させていきたい。そのために中学校や高校へ出前授業として出向き、地域の良いところを挙げてもらい皆で共有するようなグループ活動を行いたい。私は授業で話し合いを設けられた時にグループになって活発に意見を出し合い共有するそんな温かい楽しい空間が大好きだ。そんな活動ができれば、次世代を担う中高生も早い段階から地域について考え、よい発見ができるのではないかと考える。

もう一つの取り組みとしては、若者が買いたい物をしやすい環境作りをすることだ。なぜなら、私が住む高畠町には若者向けの服を売っているお店が無く、わざわざ他地区へ行ったたりネットショッピングしたりする必要があり、不便さを感じるからだ。ネットショッピングでは実際に手に取って選ぶことができない等、購入する上での難点も多い。そこで、私が地元の公務員として働くことができたなら、他地区のお店と提携して、

若者の流行を取り入れたアイテムをピックアップし、移動販売として町内を回るような取り組みを行う。この取り組みにより、地域の住民との交流も図れ、また県内の経済の循環も促進できる。

以上のように、私が地域のために働くことができるようになったら、人と人との心の距離が近いという地域の良さを生かしながら、若者が山形をもっと好きになれるような取り組みを実践していきたい。そして一度は県外へ流出してしまった若者がUターンして、外で学んだことを山形に還元し地域活性化に繋がるような流れをつくりたい。また私自身も地域の人たちに寄り添い、暮らしやすい地域づくりをしていこうと思う。そのためにも、これからの高校生活においても地元の良いさを一つでも多く見つけられるように積極的に地域行事に参加する等、様々なことに挑戦していく。そして、将来は私の大好きな高畠町を活気づけられるよう、夢に向かって頑張りたい。

米沢信用金庫理事長賞

留学を通して考える過疎地域と

小国町

山形県立小国高等学校 二年

二宮緋毯

「なんでもない小国を選んだの？」

私が小国町にきてから沢山聞いた言葉だ。「なんでもない」という言葉に私は変わらず疑問を抱いている。

去年の夏、大阪。人口七千人の山に囲まれた小国町に私は「留学」することを決意した。地方留学制度を知ってから、未開拓の地に胸を躍らせたが、いざ暮らしてみると高校生原地元への関心の薄さに気づいた。

休日や放課後に小国町を案内して頂いたとき、私はカメラで写真を撮る。その光景をすぐに思い返せるように。しかし、その写真を友人に見せたとき、「初めて知った」「聞いたことない」という言葉を何度も耳

にしたのだ。私はそのたびにショックを受けていた。

私はここで地元に関心が薄いことを非難しようとしているわけではない。ただ、刻々と表情を変える山々や、音をたてて流れる透き通った川、風に揺れる稲穂に挟まれた一本道。そんな自然豊かな小国町で育つたのに、知らない事が多いのもつたいたいと思うのだ。しかし、それは小国町に限った話ではない。人口減少、過疎化、若者不足。これらに共通するものは若者が地方に興味を持つことなく、都市に流出していくからだろう。

だから私は地方留学を推したい。若者を必要とする地方で、その土地の魅力を肌で感じ沢山の大人と関わり、そこでしか経験できないことを目一杯楽しむ。それを存分にできるのは、高校生だけだと思うのだ。留学が始まって半年が経とうとしているが、私は全国の誰よりも留学を楽しんでいる自信がある。小国町では朝夕、山の濃い甘い匂いが鼻を通る。私はこの匂いとのおなじみになった町の景色を堪能できる時間が大好きだ。何気ない日常が、通学でさえも未だに心躍るのだ。さ

らに休日や放課後には、町内のイベントがあれば可能な限り参加したり、昨年生徒が作ったひみつのきちでお菓子パーティー、遊びの作戦会議、サイクリング、山登りもしたりした。こんな充実した毎日の中に生まれる「楽しい」に私は留学の醍醐味を感じている。そして十七年間で今が最も「笑っている」時間が長い。

そんな私は留学を通して地元への関心の薄さ、若者の流出から起こる地方過疎化の課題を感じている。私達にできることはその土地の魅力を「伝える」こと、沢山の人に地方の魅力について「知ってもらおう」ことだ。実際にSNSで発信してみると小国町について興味を持ってくれた人から連絡が来た。

私は今、過疎化、それに伴う教育、地域振興など、地方に興味を持っている。それは地域のために動いているかっこいい大人をこの目で見たからだ。高校生にとって、小国は若者を中心とした企画や、主体的にやりたいことを実現できる環境があるように思われる。だから私は「なにもない小国」で日常を面白くデザインすることが存分にできるのだ。

第五回小論文コンテスト表彰式

「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第五回小論文コンテスト」の表彰式が十月二十九日（土）、ホテルモントビュール米沢で行われました。前回に引き続き、平山英三審査委員長や東京在住の理事は出席せず、米沢支部役員等の参加となる開催となりました。

表彰式では、まず小論文コンテスト実行委員長の横井博が審査講評も含めて挨拶しました。その中で、「応募者は八校から七十八名であった、その最終審査は七名の審査委員の審査結果が反映されたもの」と応募・審査状況に触れ、「このコンテストのねらいは、人口減少社会の中でこれから地域の担い手となる高校二年生が地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることにあるが、それに合致する優れた小論文が多数あり、コンテストのねらいは達成された」と振り返りました。審査講評として、今回は探究学習と結びついた小論文が主流となったこと、小国高校の小論文は留学生と在校生との交流等により相互に自分あるいは地域への肯定観が生まれてその変化を的確にとらえ書き上げていること、探究学習関連の小論文では地域や学習者同士の交流で生まれた変



横井博実行委員長挨拶



中川勝支部長祝辞

化を独自の視点で優れた内容にまとめていること、リモートワークや将来目指している職種からの新たな視点で考察した小論文があったことが報告されました。そして、これからの生活や仕事で直面する課題解決への対応のために、小論文で培った提案力や主体性を鍛え続けてほしい、と結びました。

審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選六点が選ばれましたが、中川勝米沢支部長から各受賞者の十一名に賞状と副賞が授与されました。

続いて、中川支部長が祝辞を述べ、「地域資源は気づかないだけで沢山あるが磨かなければいけない、地域内にあるその宝を磨いて地域外に発信させる、あるいは、地域外から見ても地域内の宝を磨いていく、そのようなこ



中川勝支部長より表彰状授与

とが重要になる、モノの見方を鍛え続けて地域をしっかりと支える大人に成長してほしい」と激励しました。

十一名の小論文は、「審査講評・募集要項・資料を含めて、『優秀小論文集』として発行され、出席者や高校などの関係者に配付されました。

なお、本号とホームページには最優秀賞と優秀賞の小論文五点が掲載されていますので、ぜひご覧ください。



受賞者記念写真

審査講評

第五回の小論文コンテストには、七十八点の応募がありました。今回も多くの高校二年生が地域の将来と自らの進路を重ねて考えてくれた提案を、大変興味深く読ませていただきました。

ほとんどの応募者が次のような結論に到達しています。「自分たちの住んでいる地域の現状を観察すると、その将来が危惧される。それで自然の豊かさや住みややすさを発信するなどして、地元を活性化し人口の減少を食い止めたい。そのためにも自分が地元に残ることや都会で学んだことで地元を支えることが大切だ」。

この提案のなかで、テーマ設定や展開がきちんと出来ているか、身近な事例や周りの状況を観察しその魅力を発信できているか、探求学習や職場体験などを踏まえた具体的に独創的な提案になっているか、自分の生き方を考える契機となっているか、論旨に説得力があるか、などを評価しています。

回数を重ねるにつれ、情報検索や処理能力が上がり、全体的なレベルも上がってきています。小論文に応募して初めてこの課題に直面した者もいれば、既に解決に取り組んでいる者もいます。この間の格差が評価にも現れました。しかし、気付いて取り組むことが大切なので、是非今後も継続して取り組んでいただきたいと思っています。

高校生にとって「地域の未来と自分の生き方を考える」という課題に取り組むことは大きな意義があります。学校側にも探求学習、体験学習や職場体験などの機会を通してご指導いただくとともに、論文の書き方やまとめ方もご指導いただければありがたいと思います。今回の応募は八校に留まりましたが、できれば置賜地区の全ての高校から本コンテストに応募いただければと願っています。

置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」第五回小論文コンテスト

募集要項

一. 趣 旨

少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか。二年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような道に進むにしても大事なことです。当コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い、実施するものです。

二. テー マ 三. 対 象 者

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」置賜地区高等学校二年生

四. 応募規程

①募集要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめください。また、各自の題名を付けてください。

②文字数は一二〇〇字以内（四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内）

③原稿用紙は縦書きに、一行目に題名、二行目に学校名・氏名、三行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数えます。

④使用鉛筆はHB又はBを用い、字は大きく鮮明に書いてください。

①観察力 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。

五. 審査の観点

六. 応募先
七. 募集締切

②提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。
 ③主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。
 ④論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。
 ⑤表現力 誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えている文章であるか。
 この五つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点を評価します。
 各学校の担当者まで
 各学校で指定する期日まで
 各学校から米沢有為会米沢支部事務局への提出締切日 九月六日(火)「必着」

八. 表彰
九. 表彰式
十. 審査委員長
十一. 主催・共催
十二. 後援・協賛

最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点
 十月二十九日(土) ホテルモントビュー米沢
 米沢有為会会長 平山英三
 公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会
 置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会 米沢商工会議所 長井商工会議所



(注) この募集要項・資料編や今までの優秀論文を右のQRコードからもご覧になれます。

資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)と、令和2～3年の県外転入・転出状況(資料2)の二つの視点から見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020年	2025年	2035年	2045年	人口変化率 2045/2020 (%)
山形県	1,072,473	1,015,910	897,075	768,490	72.7
米沢市	81,986	77,483	67,817	57,720	70.4
長井市	25,857	23,918	20,160	16,377	63.3
南陽市	30,715	29,017	25,494	21,762	70.9
高島町	22,546	21,131	18,214	15,115	67.0
川西町	14,228	12,783	10,148	7,655	53.8
小国町	6,931	6,059	4,517	3,220	46.5
白鷹町	13,030	11,918	9,839	7,797	59.8
飯豊町	6,618	5,956	4,755	3,620	54.7
置 賜	201,911	188,265	160,944	133,265	66.0

出典：国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2045年の人口が2020年と比較して34.0%減少すると推計されています。

資料2 山形県（置賜）の県外転入・転出状況（令和2年10月～令和3年9月）

※若年層とは15～24歳

単位：人

山形県の県外転入(置賜) [a]	山形県の県外転出(置賜) [b]		山形県の転出超過(置賜) [b-a]	
	若年層(置賜)	若年層(置賜)	若年層(置賜)	若年層(置賜)
13,453 (2,290)	3,913(619)	16,733(3,026)	6,810(1,322)	3,280(736) 2,897(703)

出典：令和3年山形県の人口と世帯数

令和2年～令和3年の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,280(736)人の転出超過です。

また、山形県(置賜)の若年層(15～24歳)の転出超過は2,897(703)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。

資料3 山形県の高校卒業者の県外への進学就職状況

単位：人

	卒業者数	大学等進学者 数(うち県外)	専修学校進学者 数(うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の 割合
令和2年度	9,791	4,515 (3,254)	2,157 (1,444)	2,755 (707)	9,427 (5,405)	57.3%
令和3年度	9,381	4,355 (3,142)	2,075 (1,339)	2,566 (512)	8,996 (4,993)	55.5%

出典：令和3年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果について

高校卒業者のおよそ55%余りが進学や就職で県外に出ています。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和3年度置賜地域の概況(令和3年7月)』があります。

資料 [r30kitamagaikyo.pdf \(pref.yamagata.jp\)](https://www.r30kitamagaikyo.pdf(pref.yamagata.jp))

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「数字でみる山形」から見てみましょう。

資料 [山形県の暮らし \(yamagata-iju.jp\)](https://www.yamagata-iju.jp)

次に、日本全体の「少子化の現状」と「地方からの人口流出の背景」を国の白書(いずれも URL)から見てみましょう。これらの資料は少し難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

(1) 日本の「少子化の現状」

内閣府資料 『少子化対策白書(平成29年度)』第1部少子化の状況及び少子化への対処施策の概況 第1章少子化をめぐる現状

https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2017/29webgaivoh/html/gb1_s1-1.html

(2) 日本の「地方からの人口流出の背景」

総務省資料 『情報通信白書(平成27年度)』「地方からの人口流出と東京圏への集中」「人口流出の背景」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc231120.html>

■ 人口減少の一因である「若者流出」等の状況を統計データで見ましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。それらの取組を紹介しましょう。

資料4

置賜圏域の将来像・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圏を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜3市5町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取組を行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2市5町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化(医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災)、②結びつきやネットワークの強化(交通、移住・定住・交流)、③圏域マネジメント能力の強化(職員等の交流)の3つの政策分野で取組を行う。

出典：米沢市 「広報よねざわ」 2019.5.1

資料5

若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

【事例1】 山形県と大学等とのUIターン就職促進協定 27大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

<協定締結大学> 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、
国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明
治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、
関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学
院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学

出典：山形県雇用・産業人材育成課

【事例2】 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会、長井教育会、飯豊町奨学資金の奨学生。大学等を卒業後6か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、山形県内の助成対象分野に通算して3年間就業した後、申請し、助成対象者に認定された時点で返還金の一部の助成を受けることができる。

出典：山形県産業創造振興課

【事例3】 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関[米沢市・南陽市・高畠町・川西町]やハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校3年生対象）や企業説明会（高校2年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校1年生を対象とした職業体験会（WAKU WAKU WORK）の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。（令和3度は4校計416名の高校生を対象に実施）

【事例4】 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

【事例5】 働く人の様子・思いなどを SNS で発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL:米沢商工会議所(jinzaikakuho-yamagata.info)]プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後のUターン、他地域からのIターン事例など幅広い情報をインスタグラムや動画などで発信している。

<米沢有為会からの一年早めの情報> ・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

①3つのタイプの奨学金（貸与型：女子向け住居費補助奨学金2万円と一般貸費奨学金4万円、減免型：地元若者定着奨学金4万円条件を満たせば2万円減免 いずれも無利子）と

②東京と仙台に男子学生寮（平日朝夕2食付き、個室、月5万円程度）を用意しています。

今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会 HP で（QRコードからどうぞ!）



会員の広場

「句会・漆の実」の活動

令和四年作品・抄

(氏名・五十音順)

大田 甘美

片山 丹波

小山八州史

佐野 眞

濱田 扇風

収集車追ひかけ走る冬の朝
 古代より住まふ台地に片子咲く
 後の月平家琵琶の音響く谿
 春めける金婚を祝ぎ赤ワイン
 たんぽぽの踏まれても葉の放射せり
 木道を往き秋嶺を共にする
 宿ごとに湯神を祀り雪の磴
 朱印所に並べ甘茶の大葉缶
 水門の大鉄扉下り秋の河
 地方紙に包まれ郷の鯛届く
 歩くと言ひ抱つこと言ひて冬夕焼
 行李出て浴衣の折目芳はしき
 父に似る干支の寅買ひ初詣

敷石の夜更けて白き余寒かな
 ものの芽の一气呵成に発進す
 春風に二本抱へてフランスパン
 バギーから小さき足裏若葉風
 ゲリラ花火夜空に探す三分間

松原 薫子

【小山 八州史・報】

今年はコロナ禍には開き直って一年間句会を継続しました。永年、お世話になった田町の東京工業大内の山大サテライトも、建物の改築のため利用できなくなりまして。永年会場幹旋にお世話頂いた池田弁之助様には厚く御礼申し上げます。新たな開催場所として新橋の「喫茶店ルノール」の貸会議室を利用することにしました。

最近NHKのEテレやTBSの「プレバト」などで俳句が一つの活況を見、各地で俳句会が発足しはじめました。「漆の実句会」も故鈴木淳一氏のご尽力によって発会し永年継続してきました。有為会の皆さまもぜひ俳句を作って人生を謳歌しては如何でしょうか。原則として第四土曜日の午後開催、会費は飲み物付きで千五百円、初心者大歓迎です。

連絡先 小山泰・〇四八―九三一―八二〇四

郷土の本紹介 (R3・11〜R4・10)

資料提供 — 市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
1	神になった武士	高野 信治／著	吉川弘文館	K172	2022・4	米沢における藩祖神としての上杉謙信など、実在する人物の神格化が全国各地で確認される。なぜ神と祀られてきたのか、背景や祀る地域の特色をふまえて、解き明かす。
2	特別展 戦国京都と上杉家	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K210	2022・4	2022年4月16日から6月19日まで、米沢市上杉博物館で開催された特別展「戦国京都と上杉家」展の図版目録。
3	秀吉襲来	渡邊 大門／著	東京堂出版	K210・4	2021・12	豊臣政権下で、全国各地の大名は秀吉にどう対応したのか、史料に基づき紐解く。田中宏志「上杉景勝と豊臣政権」を収録。
4	国衆	黒田 基樹／著	平凡社	K210・4	2022・4	近年、戦国大名が支配した領国の内側に、小規模ながら重要な役割を果たした「国衆」という存在が注目を集めている。国衆とはどのような存在なのか、事例をもとに解説した一書。
5	豊臣五奉行と家康	渡邊 大門／著	柏書房	K210・4	2022・5	豊臣政権下で権威を握った五奉行について、来歴から関ヶ原の戦いの戦後処理まで詳細に説明した一書。
6	諍いだらけの室町時代	渡邊 大門／著	柏書房	K210・4	2022・7	室町期、関東支配をめぐり上杉家は山内上杉氏、宅間上杉氏、犬懸上杉氏、扇谷上杉氏の四家の盛衰があった。本書では上杉氏ほか、様々な一族の台頭、衰退からどのように戦国時代に至ったのか紐解く。
7	境目の戦国時代	大貫 茂紀／著	小さ子社	K210・4	2022・7	戦国時代、大名の支配地域の周縁部には帰属が曖昧な領域である境目が広がっていた。本書では上杉・武田・北条の領土の境目に注目し、領主たちが情勢に合わせてどう動いたか紐解く。
8	近世武家社会の研究	榎本 秀和／著	戎光祥出版	K210・5	2022・3	近世大名における家格制度や、明治維新以降の旧諸侯系華族の爵位について概説する一書。特徴的な武家として上杉家上級家臣団について解説する。
9	長井市史 通史編第2	長井市史編纂委員会	長井市	K212	2022・3	上杉氏支配下の長井市の様子、最上川舟運で栄えた長井商人の活躍、上杉氏お抱えの長井出身の刀工、俳句等の郷土の文学について編纂した通史。
10	置賜の100年	しなのき書房／編	いき出版	K212	2021・11	明治から昭和後期にかけて、置賜地方の街並みや風景を収録した写真集。写真の解説文付き。
11	近世・近代の村山地域	荒武賢一朗／編	清文堂出版	K212・5	2022・1	幕府や、藩の支配体制を解明し、地域政治とはどのようなものだったか論じた一書。宮田直樹氏「出羽国村山郡における米沢藩預所とその支配」を収録。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
22	咲く 散る 実る	あるほなつき	るーつ企画	K726	2022・2	山形県を拠点に絵本の出版や作品制作を行う二人組、 「There is a」（あるほなつき）の制作絵本。宇宙誕生から植物 の誕生、桜と人の関わりを絵や写真で表現している。
21	さよならデパート	渡辺 大輔／著	スコップ出版	K6738	2022・4	2020年1月27日に自己破産を発表した山形の老舗デパート 「大沼」。様々な関係者の証言から「大沼」の繁栄と衰退の32 0年を描くノンフィクションストーリー。
20	森に暮らす	黒田 三佳／著	山形会議パブリッシング	K590	2022・5	里山ソムリエである著者の南原での生活を、四季の自然、料理 の写真を交えて綴った一冊。森での暮らしの魅力を伝えながら、 暮らしの知恵を記録したエッセイ集。
19	森への招待状	近 芳明／著	風詠社	K462・1	2021・11	米沢で育った著者が野山に住む生き物を紹介する趣味実用書。 全篇フルカラーの写真を掲載。
18	米沢海軍	工藤美知尋／著	芙蓉書房出版	K397・2	2022・7	海に面していない、内陸の米沢から何故多くの海軍将官が輩出 されたのか。米沢出身の海軍将官、その関係者から紐解く。米 沢出身海軍士官の名簿を収録。
17	指揮官たちの第二次大戦	大木 毅／著	新潮社	K391・2	2022・5	第二次大戦参戦各国の指揮官の素顔を紐解く軍人評伝。米沢市 出身の海軍大将、南雲忠一についても紹介。
16	上杉鷹山の藩政改革と金主たち（米沢藩の借金・再生史）（改訂版）	加藤 国雄／著	加藤 国雄	K343	2022・3	2021年6月初版の『上杉鷹山の藩政改革と金主たち』米沢 藩の借金・再生史』の改訂版。初版を再分析し、上杉鷹山の藩 政改革を経済面からまとめる。
15	忘れられた日本憲法	畑中 章宏／著	亜紀書房	K323・1	2022・7	「大日本帝国憲法」が公布されるまで、多くの私擬憲法が起草 された。起草者の当時の立場、社会情勢から私擬憲法を言及し た一書。元米沢藩士の宇加地新八の草案も取り上げる。
14	スラヴの十字路	嵐田 浩吉／著	里文出版	K293	2022・6	2013年初版の新装増補版。スラヴの文化、地域を概説した 入門的な一書。著者は米沢市出身。
13	図説上杉謙信	今福 匡／著	戎光祥出版	K289・1	2022・4	「歴史図説シリーズ」の最新刊。上杉謙信の生涯、合戦、外交を 解説した一書。多数のカラー図版を収録。
12	相模朝倉一族	志村 平治／著	戎光祥出版	K288・3	2022・5	戦国期に小田原北条氏に仕え、上杉謙信や武田勝頼に奮戦した 相模朝倉一族。多種参考資料を用いて解説した地域史研究書。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
23	書画文芸でたどる新潟 文化点描	岡村 浩著	新潟日報事業社	K7282	2022.3	新潟県ゆかりの文人を取り上げ、その書および書画と人物について、地元に着目した親しみやすい話題を紹介。元米沢藩士の八木朋直の書画文芸についても取り上げる。
24	日本の名刀		ホビージャパ	K7566	2022.3	刀剣専門雑誌『刀剣画報』のスペシャル版ムック。上杉謙信の愛刀とされる山鳥毛、姫鶴一文字などを掲載。
25	Home	眞鳥 秀和著	トゥルーヴァー ジンス	K7782	2022.4	米沢市出身の俳優・眞鳥秀和氏が自身の地を辿りながら、故郷の魅力伝える写真集。米沢市の様々なスポットを紹介しており、ガイドブックとしても楽しめる一冊。
26	米沢と文学	千葉 正昭著	社会評論社	K9102	2022.4	米沢ゆかりの文人九名について、米沢との関わりや作品の中のがなされ、読みやすい一書。
27	笑いの力、言葉の力	渡邊 文幸著	理論社	K9102	2022.7	芝居、小説、随筆、コント集など多彩な創作活動を行った井上ひさし。自身の生い立ち、戦時中のことから、主宰した劇団・こまつ座についてまで綴った一冊。
28	大熊信行と凍土社の地 域文化運動	仙石 和道著	論創社	K9111	2022.4	米沢出身の経済学者・評論家・歌人であった大熊信行。大熊その人の人間性に注目し、その活動の特質を追究した研究書。
29	板谷峠の死闘	日暮 高則著	コスミック出版	K9136	2022.2	元緑赤穂事件において、実子・上杉綱憲が藩主である米沢に吉良上野介義央が逃がれ、浅野家の家老、大野九郎兵衛と板谷峠で激闘を繰り広げる創作時代長編小説。
30	鴨川食堂しあわせ	柏井 壽著	小学館	K9136	2022.5	鴨川食堂シリーズの第九作目。食べ物にまつわるミステリー六話分を収録。六話目の「すき焼き」は、置賜地方のすき焼き文化が小説内でカギとなる。
31	この世の真実が見えてくる	井上ひさし著	岩波書店	K9146	2022.5	著書未収録の著作の中から「世の中」をテーマとするエッセイを選りすぐって収録した一冊。仙台での生活や江戸戯作者にならったパロディなど、多彩なエッセイが楽しめる。
32	まるまる徹夜で読み通す	井上ひさし著	岩波書店	K9146	2022.7	著書未収録の著作から、「読む」「ことば」をテーマとするエッセイを選りすぐって収録した一冊。著者が贈った、他作家の本の推薦文も収録。
33	客席のわたしたちを圧倒する	井上ひさし著	岩波書店	K9146	2022.6	「井上ひさし」発掘エッセイ・セレクションの第2弾。映画、芝居、テレビ、漫画、野球などをめぐるエッセイ及びその周辺の著作を精選し収めた一冊。
34	吉本隆明全集28	吉本 隆明著	晶文社	K918	2022.4	詩人・評論家である著者の1994年から1997年の作品をまとめた一冊。学生時代を過ごした米沢について回顧した「遥かな米沢ロード」を収録。

法人賛助会員名簿

(令和四年十一月二日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。ごぞいませ。

東京支部

(代表者 敬称略)

(有)アルックス

宮坂孝夫

舟寿し

深澤和子

くさかり小児科

草刈章

(株)向洋アドシステム

金子晃司

(有)大雪インテリア

岡本葵

米沢支部

(代表者 敬称略)

相田建設(株)

相田晃輔

(株)小嶋絵本店

小嶋健市郎

置賜建設(株)

川野敬典

(株)大清

中村友彦

(株)丸定

佐藤良喜

米沢中央高等学校同窓会 権の実会

さの医院

中條医院

若松工業(株)

(財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社米沢支社

東北警備保障(株)

(株)カワサキ印刷

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニック

米澤信用金庫

(株)さらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

(有)今泉商店

石橋医院

佐野隆一

中條明夫

片倉尚

宮坂直樹

渋谷賢一

井上吉昭

磯野文久

石田一郎

佐々木裕孝

武田誠一郎

川崎信一

佐藤大介

田中雄二

加藤秀明

国井知秀

廣居知誠

有海利至

今泉宏

石橋正道

山岸草木工芸(株)
 (株)本多建設
 佐々木隆一司法書士事務所
 (株)荘内銀行米沢中央支店
 (株)平山孫兵衛商店
 (株)米沢牛 黄木
 村正運輸(株)
 (株)ナウエル
 (株)川島印刷
 (株)タスクフーズ
 (株)上杉コーポレーション
 (株)データシステム米沢
 金子建設工業(株)
 米木建設(株)
 (株)青葉堂印刷
 太田建設(株)
 (株)エービーエム
 (株)後藤組
 ハイメカ(株)
 (株)村山商工

山岸幸一
 本多作之助
 佐々木隆一
 荒井誠司
 平山順一
 黄木修太郎
 村山正博
 酒井登
 川島良範
 宮坂宏
 遠藤勲
 高橋孝二
 金子尚人
 前山郁朗
 中村啓二
 太田政往
 赤間俊明
 後藤茂之
 横山千広
 村山順彌

(株)天元台
 ジーエスデザイン(株)
 東亜熱研工業(株)
 (有)HYOコーポレーション
 日台マシナリー(株)
 (株)小島洋酒店
 (株)ニューテックシンセイ
 (株)我妻組
 我妻建設工業(株)
 吉田建設(株)
 浜理PFS T(株)
 (有)山形工房

山田長一
 福崎真知子
 増村力
 兵庫等
 丹野信嗣
 小島長五郎
 乗原晃
 我妻悦雄
 我妻弘一
 吉田浩人
 渡部輝良
 梅津雄治

仙台支部
 (代表者 敬称略)
 加藤啓二

仙台環境科学(株)

・東京支部 五社
 ・米沢支部 五十七社
 ・仙台支部 一社
 合計 六十三社

公益社団法人

米沢有為会役員名簿

令和四年十一月現在

名誉会長
名誉会員

会長・代表理事
副会長・代表理事
理事

監事
諮問委員
(東京)
(同)

上杉邦憲	下條泰生	須貝英雄	大滝則忠	平山英三	加藤国夫	伊藤和夫	小野庄士	加藤正憲	甲斐國幸	菅野隆雄	菊地憲卓	須貝利喜夫	滝口政彦	手塚宮雄	森田光雄	矢尾板操	横井秀太郎	伊藤善造	片平善造	赤井淳一	飯沼俊男
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------

(仙台)	(同)	(同)	(東京)	(米沢)	(東京)	(東京)	(同)	(同)	(同)	(米沢)	(米沢)	(米沢)	(仙台)	(仙台)	(北海道)	(同)	(米沢)	(仙台)	(米沢)	(米沢)	(東京)	(同)	(同)
遠藤光広	大武清夫	加川晃巖	金子周治	金子周治	劉子周	野野耕章	紺野三	佐藤由	佐藤由	佐藤由	高橋修明	澤橋修明	林節一	村邦夫	丹久夫	(同)	塚昌伸	仁昌伸	科義一	西村英	羽村純	樋口弘	平山博

相談役

(米沢)	(東京)	(米沢)	大友久太郎	大友久太郎	小森力雄	佐藤毅	中條仁	米野宗禎	種村信次
宮坂宏	村石房男	山木勇一郎	大友久太郎	大友久太郎	小森力雄	佐藤毅	中條仁	米野宗禎	種村信次

理事役割分担

○総務部

部長	五雲寺卓	事務局長	五雲寺卓	事務局長	加藤正憲	事務局長	加藤正憲	同 参事	倉田和子	同 参事	田中勝子	同 参事	村田和子	財務担当	森田絹代	施設担当	菅野光雄	同 参事	高瀬憲勝
----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

○育英事業部

組織担当(東京)	菅野憲幸	組織担当(米沢)	伊藤和夫	同 参事(米沢)	菅野智幸	組織担当(仙台)	甲斐國信	内閣府連絡担当	平山英三	同	森田光雄	同	伊藤和夫	部長	伊藤和夫	副部長兼募集担当	手塚宮雄	奨学金担当	菊地隆雄	募集担当	小野庄士	学生寮(東京)担当	菅野憲幸	学生寮(仙台)担当	滝口政彦
----------	------	----------	------	----------	------	----------	------	---------	------	---	------	---	------	----	------	----------	------	-------	------	------	------	-----------	------	-----------	------

○地域振興部

部長 横井 博
副部長兼小論文・産業担当
 小野 庄士

理事 矢尾板 操
 参事 鈴木 幸一

同 遠藤 善一

同 岸田 順孝

同 柴田 正彦

同 高橋 善彦

同 長谷川 健彦

同 本多 和彦

同 宮坂 宏彦

同 山木 勇一郎

○文化広報部

部長 塚宮 雄
会誌担当 菊地 隆雄
HP担当 須貝 利喜夫
 参事 梅津 幸保

同 石田 和弘

同 佐藤 孝市

同 近野 久左門

同 山口 正廣

○文化大学

名譽学長 大滝 則忠
 学長 加藤 国雄

運営チーム

同 加藤 正憲
 同 菅野 憲幸
 同 手塚 宮雄

○東京支部長

菅野 憲幸

○米沢支部長

中川 勝

○我妻榮記念館担当

矢尾板 操

○仙台支部長

甲 國信

○北海道支部長

田村 邦夫

○教育委員

岸 順一
 齋藤 裕司
 神保 雅寿

○産業振興委員

高橋 善彦
 辻 雅人
 齋藤 友久

菅野 紀生
 柴田 正孝
 齋藤 久

学生寮興讓館

○東京興讓館

館長 菅野 憲幸
副館長 大滝 則忠
運営チーム 菊地 隆雄

○仙台興讓館

寮母 福田 富子
館長 滝口 政彦

○我妻榮記念館

名譽館長 我妻 孝江
顧問 村上 勘二
館長 矢尾板 勘

○我妻榮記念館

管理人 手塚 正
運営委員 本多 和彦
 同 安部 敏一
 同 佐野 隆一
 同 高橋 節子
 同 佐藤 繁

○我妻榮記念館

同 曾根 伸哲
 同 佐藤 繁

○我妻榮記念館

同 佐藤 繁

東京支部役員

支部長 菅野 憲幸
副支部長 川合 勇雄

理事 加藤 国雄
 加藤 正憲

同 倉田 和子

同 五雲寺 卓

同 佐藤 好明

同 林常 夫子

同 宮坂 孝夫

同 菊地 隆雄

同 工藤 美知尋

同 須貝 利喜夫

同 齊藤 三紀

同 片平 善造

同 松崎 祐樹

同 小森 力雄

同 石原 俊一

同 米野 宗禎

同 安部 壮一郎

同 安部 洋司

同 岩井 麻矢

同 岩瀬 和子

諮問委員

相談役

監事

米沢支部役員

支
部
長
中
川
勝

副
支
部
長
伊
藤
和
夫
横
井
博
夫
佐
藤
敏
由
安
部
知
敏
安
部
徹
夫

遠藤 弘隆
神野 夫
金藤 泰
佐藤 孝
佐藤 毅
橋本 享
舟山 国
村石 房
山村 幸
田房 生

監事 諮問委員

(常務)

近野 久左門
佐藤 孝
佐藤 由
山宮 光
菅野 智
鈴木 幸
曾根 伸
高橋 節
高橋 彦
種村 信
塚田 昌
土塚 宏
手塚 宮
中川 勝
長谷川 健
本多 和
矢尾 操
山木 郎
横井 博
柴田 孝
宮坂 宏
石田 弘
伊藤 夫
伊藤 七
稲村 範
井上 榮
漆山 裕

顧問

奧村 政秋
金沢 良真
川野 裕章
下條 邦彦
後藤 仁
齋藤 裕
庄司 芳彦
神保 雅一
武田 誠
辻保 雅
辻保 雅
手塚 哲
樋口 弘
福崎 真知子
福崎 弘
山崎 一
山崎 弘
山崎 弘
内谷 秀
加藤 重
加藤 重
加藤 重
加藤 重
後藤 幸
佐藤 幸
高梨 忠
白岩 孝
仁科 洋
原田 俊

相
談
役
大
河
原
真
樹
增
村
三
十
郎
安
部
浩
三
郎
本
間
浩
一
宮
本
秀
行
米
浩
一
遠
藤
秀
一
渡
藤
美
由
紀
青
木
美
由
紀
木
村
美
穂

仙台支部役員

支
部
長
甲
木
修
治
副
支
部
長
鈴木 國
塚原 保
安部 金之丞
今井 宗
遠藤 良
大藤 光
加藤 清
大川 清
鈴木 良
滝口 政
田林 一

國
治
信
甲
木
修
治
鈴木 國
塚原 保
安部 金之丞
今井 宗
遠藤 良
大藤 光
加藤 清
大川 清
鈴木 良
滝口 政
田林 一

監事 長澤健一
 相談役 中條邦仁

北海道支部役員

支部長 田村邦夫
 副支部長 佐藤俊一
 理事 上野和子
 須賀秀樹
 丹野久進
 鈴木吉行
 関田二郎
 孫中健治
 田中敏郎
 加藤三雄
 佐藤三雄
 安部英夫
 相談役

興讓館寄宿舎

OB会

会长 大滝則忠
 副会長 甲(仙台OB) 國信

幹事長 菅野憲雄
 副幹事長 川合勝夫
 宮坂孝夫
 斎藤正宏
 手塚彰
 平山和博
 伊藤和夫
 山田幸夫
 篠田雅生
 本宮雅夫
 佐藤和彦
 川野井一
 菅野憲一
 高瀬勝

會計幹事 高瀬勝
 監事 菅野憲一

顧問

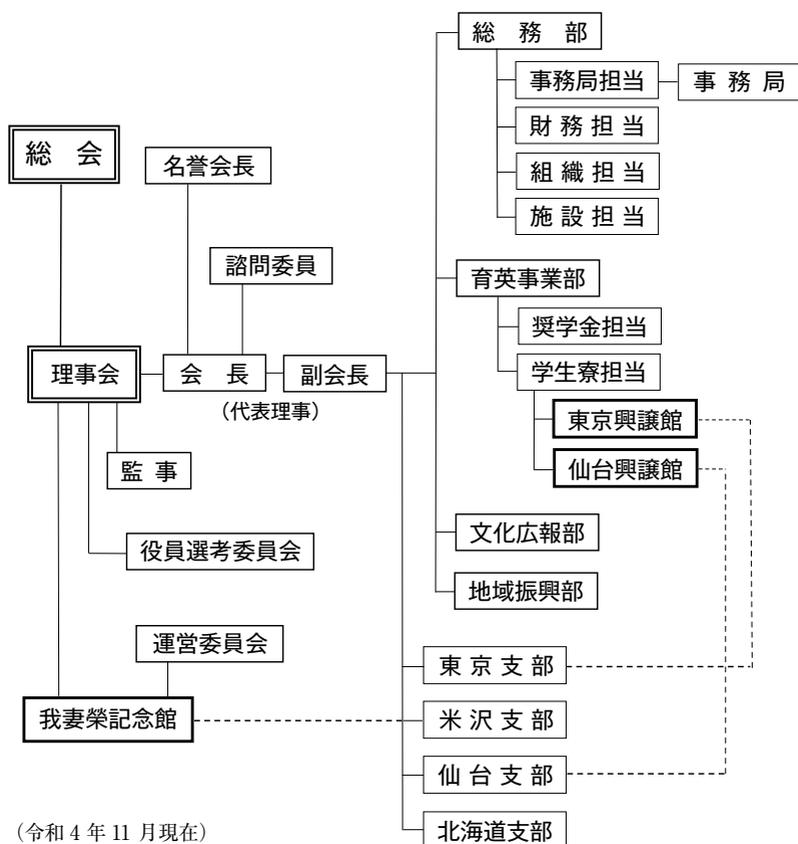
東京支部長 加藤秀樹
 東京支部副幹事長 佐藤三郎
 東京支部幹事長 安部憲雄
 東京支部幹事 安部洋司
 東京支部幹事 鈴木正明
 舟山篤夫
 武田国夫
 赤井淳一
 高征一
 高征一
 本山和彦
 高征一
 佐藤和彦
 甲藤由信
 塚原保夫
 鈴木良平

仙台支部監事
 仙台支部顧問
 仙台支部事務局

平吹隆彦
 滝口政一
 船山完一
 中條健一
 長澤健一

公益社団法人 米沢有為会 組織一覽図

(意思決定し業務執行を分掌する理事会体制)



(令和4年11月現在)

本部・各支部事務所所在地

本部

☎一八二一〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (〇三三)(三三三〇九)三三三〇一一

ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukikai.org/>)

東京支部

☎一八二一〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (〇三三)(三三三〇九)三三三〇一一

米沢支部

☎九九二一八五〇一

山形県米沢市金池五丁目二一―二五
米沢市役所内 秘書広報課内

電(〇三三八)(三二二)五一一一 FAX(〇三三八)(三二二)五五四一

仙台支部

☎九八〇一〇八七四

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六―二二
仙台興譲館内

電・FAX (〇二二)(二二二)四七九〇

北海道支部

☎〇六〇一〇〇六一

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T.G 札幌ビル7F
㈱日建社内 田村邦夫

電(〇一一)(二七一)二五八五

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年会費 一〇、〇〇〇円 以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることもできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

米沢有為会設置施設

東京興讓館 ☎182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309)3302

仙台興讓館 ☎980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222)4790

我妻榮記念館 ☎992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24)2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

置賜地区の自治体所在地

米沢市

〒992-8501 米沢市金池五丁目 2 番25号 ☎0238-22-5111

長井市

〒993-8601 長井市栄町 1 番 1 号 ☎0238-84-2111

南陽市

〒999-2292 南陽市三間通436番地の 1 ☎0238-40-3211

高畠町

〒992-0392 高畠町大字高畠436番地 ☎0238-52-1111

川西町

〒999-0193 川西町大字上小松977番地1 ☎0238-42-2111

小国町

〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地 ☎0238-62-2111

白鷹町

〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地 ☎0238-85-2111

飯豊町

〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地 ☎0238-72-2111

後記

☆異常気象のせい、夏の酷暑が長く続いたかと思うと、秋は朝夕寒気が身に沁みて早々と暖房に頼らざるを得ない日々を過ごしています。今年はまだ収束しない新型コロナウイルス禍に加えて、二月二十四日に始まったロシアのウクライナ侵略の影響で、避難民の発生は言うまでもなく、エネルギーや食料不足、物価高などで世界は混乱しています。そうした激動の一年がやっと終わるのかと複雑な思いで振り返りながら、『米沢有為会々誌』第七十二号をお届けいたします。何かとご苦勞の多い中、各種のご報告やご意見などをご寄稿いただきまして厚く御礼申し上げます。

☆今年度本会の活動の中で特筆すべきは、文化大学が三年ぶりに再開されたことです。コロナ禍の影響で二年以上開催できませんでしたが、定時総会や理事会と同じようにZoomを利用したりモット方式で実施できました。年四回予定されています。会誌の本号に掲載されたのは、七月と十月に開催された二回の講演の要旨のみですが、次号には四名の講師の皆様からご寄稿いただけるものと期待しております。なお、詳細はホームページ（HP）をご覧ください。

☆二〇一八年、本会が創立百三十周年を迎えてから五年間本誌に掲載されてきた「活動ビジョン」は今回で最後になります。この間、学生寮の改修工事をはじめ、奨学金制度の改善充実、高校生小論文コンテスト等の若人交流や文化活動等の地域振興事業、募金活動はお陰様で皆様のご理解とご協力により実施することができました。今年度は特にHPの更新充実に加えて、本会有志によりインターネット百科事典ウィキペディアへの発信が実現しました。ネットを開けば本会の概要を知ることができそうですが、掲載したばかりで情報が不十分なため、今後は皆様から更新のための客観情報をお寄せくださるようお願い申し上げます。

☆二〇二〇年から約三年に及ぶ新型コロナウイルス感染は未だ収束に至らず、第七波の途上にあつて、第八波とインフルエンザの同時襲来とも報道されています。十一月十日現在、世界の感染者数の累計は約六億三千万人、死者は六百六十万人以上となりました。パンデミックは止まるどころを知らません。日本でも感染者の累計は約二三〇万人、死者四万七千人以上に達しています。しかし、四回目までのワクチン接種が進み、第七波のオミクロン株感染の影響が比較的軽症で済んでいることから、外国人の入国や観光などで一部制限が緩和されています。学校の授業もオンラインから対面式に増えています。そうした中、定時総会、理事会、文化大学、委員会等は依然オンライン会議を継続しています。考えようによつては時間と旅費の節約になり大変便利で、コロナ禍が収まるまで当分の方式が定着すると思いますが、せめて年に一度の定時総会は以前のように米沢でなるべく多くの会員のご出席を得て開催したいものです。

☆来年は卯年。混乱する世界が早く収まり穏やかな生活ができるように願うとともに、皆様にはなおコロナ対策を取りながらご健勝にてご活躍の上、飛躍の年となるようご祈念いたします。（文化広報部長 手塚宮雄）

広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

(敬称略・五十音順)

上杉観光開発株式会社
株式会社 上杉コーポレーション
株式会社 羽陽印刷
株式会社 エービーエム
株式会社 川島印刷
株式会社 小嶋総本店
株式会社 スリーウッド・プロデュース
仙台環境科学株式会社
株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗
東北警備保障株式会社
株式会社 ナウエル
日本橋小舟町 舟寿し
株式会社 日山
株式会社 本多建設
吉野石膏株式会社
米沢牛銘柄推進協議会
米沢商工会議所
米沢信用金庫
株式会社 ワイ・エム・ピー

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60
電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本 社
〒992-0003

山形県米沢市窪田町窪田584-2
☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所
〒992-0472

山形県南陽市宮内4641
☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

お客様の商売繁盛を応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd



株式会社

川島印刷

〒992-0021

山形県米沢市大字花沢221-2

TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

ホームページに事例多数掲載中！

川島印刷

←検索



純米酒 東光醸造元

株式会社 小嶋 総本店

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL 〇二三八 一三二一四八四八

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒



東光 純米吟醸原酒

三年連続金賞受賞

ワイングラスでおいしい
日本酒アワード

〇お近くのお酒屋さんで買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト

大泉逸郎「孫」(テイチク) 河北町
浜博也「妻という名の…」(テイチク) 飯豊町
奥山えいじ「うまい酒」(テイチク) 尾花沢
(カラオケで唄ってください)

代表取締役
プロデューサー **木村尚武**

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録

宮城県知事 第H7-001号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号

TEL (022) 263-1361

FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



創業百七十余年

みやさかや



株式会社 タスクフーズ

山形県米沢市相生町7-130

TEL:0120-25-7188

水曜日定休日有ります

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元で愛されて50年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

- 営業品目
- ・ 機械警備
 - ・ 常駐警備
 - ・ 交通誘導業務
 - ・ イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
 - ・ 施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
 - ・ 清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

日本橋

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
培われた江戸前の技が活きる
お寿司・お刺身と共に四季折
々の御料理がご堪能いただけ
ます。お座敷はさまざまな個
室、カウンター、テーブル席
もご用意いたしております。
大小ご宴会から御家族、ご友
人との御会食まで幅広くご利用
頂けます。

深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2 深澤ビル
<http://www.funazushi.info/>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30
PM 4:30~PM10:00
(PM9:30オーダーストップ)
(土曜日の夜は、10名様前後で要前日予約)

【定休日】 日曜日、祝日、第四土曜日
※ 座敷は全席、椅子席になります



家族を愛する
ママを応援する家。



住宅の新築

- ♥ ママ応援住宅
 - ♥ 子育て世代応援住宅
- ママエール
建替え、二世帯住宅など



リフォーム

水まわり工事など
小さな修繕から、増改築、
全面リフォーム(新築二世)まで

不動産 土地の売買や
中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ本多建設 [検索](#)



株式
会社

本多建設

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号:山形県知事許可(特-30)第500142号/一級建築士事務所登録:山形県知事登録(1104)第1715号/宅地建物取引業者免許番号:山形県知事(11)第1234号

いつも一緒に あなたのそばに



しんきん



さまざまなカリキュラムで
随時開催中!

参加無料!

ドコモ以外の方も大歓迎!

まだスマホを
持っていないでもOK!

※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。※ドコモショップ店頭または電話、WEBにて事前にお申込みください。※受講にはdポイントクラブ入会、dポイントカード利用登録、dアカウント発行が必要です。※一部有料の講座があります。

ドコモスマホ教室の参加には、事前にご予約が必要です。
ドコモショップ店頭または電話・Webにてお申込みください。

Web予約はこちら



※ご予約できる席数には限りがございます。
※教室参加時にモバイルデータ通信が発生する場合があります。
※受講にはdポイントクラブの入会、dポイントカードの利用登録、dアカウント発行が必要です。
※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。

※サイトへのアクセスにはネット通信料がかかります。
※iモードからはご利用になれません。

ドコモショップ米沢春日店

〒992-0044 米沢市春日1-3-31



0120-028-280

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



一帯共同加入
全国携帯地販売代理店協会

ドコモショップ南陽店

〒999-2241 南陽市郡山624-1



0120-090-128

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



上杉神社御参拝や上杉博物館・上杉
伯爵邸御見学など、上杉文化エリアを
ご散策の際には、ぜひお立ち寄りください。
米沢・山形の逸品をお取り寄せできる
上杉城史苑ネットショップもご利用ください。



上杉城史苑

TEL.0238-23-0700

米沢市丸ノ内1丁目1-22

<https://uesugijoshien.jp>



株式会社

羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22
TEL (0238) 23-0467(代)
FAX (0238) 23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



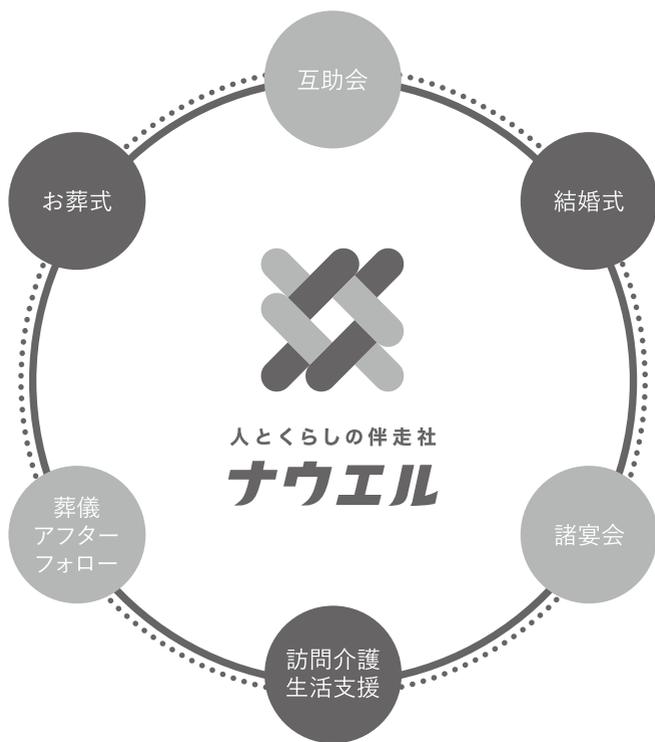
米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp



お問い合わせはこちらまで

お葬式

ナウエル典礼
米沢市松が岬2丁目1-19

0120-38-9494
〔受付時間〕24時間

結婚式・諸宴会

グランドホクヨウ
米沢市金池2丁目3-7

0120-22-1239
〔受付時間〕9:00～18:00

訪問介護・生活支援

ナウエルサポート
米沢市駅前1丁目1-110

0238-27-0065
〔受付時間〕8:30～17:30

日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

High-Clean Board

タイガーハイクリンボード

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(財)日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物汚染削減建材」として認定されました。(認定番号:BCU-ALB177) 国産品



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る **吉野石膏**

【本社】東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>

代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年8月2日復刊
第72号
令和4年12月10日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 平山英三
編集 文化広報部長 手塚宮雄
東京都調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302
印刷 榎羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467